

安重根義士殉国107周忌追慕式

大韓國人
安重根

日時：2017年 3月 26日(日) 午前 10:00

場所：安重根義士紀念館 講堂

安重根義士崇慕会・紀念館

大韓國人

大韓國人
安重根

式 順

司会：事務局長 李恵筠

- 開 式
- 国民儀礼
- 略傳奉読 副理事長 趙東成
- 最後の遺言朗読 安重根弘報大使 梁承國
- 追慕式辞 理事長 安應模
- 内賓 追慕辞 国家報勲処長 朴勝椿
光復会長 朴維徹
- 追慕公演 テナー ヤングアンジン
ソプラノ グォンソンスン
- ‘星になって’ ‘懐かしい金剛山(クムガンサン)’
- 感謝牌の授与
- 作文コンテスト・UCC 公募展の受賞者賞状授与
- 献 花
- 安重根義士追念歌 斉唱 歴史青少年合唱団
- 閉 式

安重根義士略傳

1879年 1歳

安重根義士、1879年9月2日(陰暦7月16日)生まれる。

1884年 6歳

一家が清溪洞に移る。

成長しながら儒学を学ぶ一方、武技を習い武人としての気象を高める。

1894年 16歳

金亞麗と結婚する。

東学農民軍を押える新川郡の先鋒軍として参戦し勇猛をふるう。

金九先生と出会う。

1896年 18歳

父親安泰勳進士、カトリック明洞聖堂に避身して、カトリック教理を習得する。

1897年 19歳

1月中旬、ウィレム神父からトマス(多黙)という洗礼名を受ける。

1898-1904年 20-26歳

教会活動に献身しながら総大主教に迎えられ、教友たちの難題解決に努力する。

1905年 27歳

ミュデル主教に大学設立を建講する。

新聞、雑誌、各国の歴史書などを読みながら政治思想と独立精神を学び、日露戦争で勝った日本が韓国の主権侵奪をはかろうとすると、父親と相談して国外抗日基盤を用意するために中国の上海と山東半島地域を訪問する。

長男ブンド出生。

1906年 28歳

一家が鎮南浦に移り、育英事業に献身する。

1907年 29歳

国債報償運動に参加する。

ソウルで軍隊解散を見て、間島、沿海州地域に亡命し沿海州で祖国独立闘争を始める。

次男俊生出生。

1908年 30歳

沿海州韓人村を巡回しながら同議会の会員を募集する。

300余人の義兵部隊を従えて国内進入作戦を展開する。

ウラジオストクで義兵活動の再起をはかったが失敗する。

1909年 31歳

断指同盟を通じて同議断指会を組織する

12人の断指血盟同志

安應七(31歳)、金起龍(30歳)、姜順崎(40歳)、鄭元柱(30歳)、朴鳳錫(32歳)、

劉致弘、超應順(40歳)、黃丙吉(25歳)、白奎三(27歳)、金伯春(25歳)、

金千華(26歳)、姜昌斗(27歳)

「人心結合論」を発表する

安重根義士「最後の遺言」



私が死んだら
私の骨をハルビン公園の傍に葬埋めて置き、
我が国の国権が回復したら故国に返葬してくれ。
私は天国に行ってから
当然我が国の回復のため努力するだろう。
お前達は帰ってから同胞達に、
各々皆が国の責任を担って国民としての
義務を尽くし、心を一つにし、
力を合わせて功を立て、
業を成すように伝えてくれ。
大韓独立の声が天国に聞こえたら
私はきっと舞を舞い、
万歳を唱えるだろう。

見
利
思
我
見
危
授
命

庚戌三月 朴泳映獄中 大韓同人 安重根書

東洋平和論

我が国の独立運動史で「英雄」と称される安重根義士が獄中で筆を執った未完成遺稿である「東洋平和論」は、国権回復運動のために立てた指標として、以後我が国の独立運動の基本的な思想体系です。

安義士の愛国啓蒙運動と抗日独立運動、そしてハルビン義挙を決行したことは、正しく民族主義意識と平和愛護思想の土台があったからです。

「東洋平和論」は序文、前鑑、現状、伏線、問答に分けられており、その中で安義士は序文と前鑑の一部のみを執筆しただけで、それ以外の部分は日本が急いで死刑を執行することで、まだ完成することができずに殉国しました。

安義士は序文で「合成散敗万古定理」、即ち、「合わせれば勝って散らばれば敗れるということは永遠に変わらない理」であることを説明して、弱肉強食と適者生存の論理の中で、西欧列強が弱小国を犠牲にさせる時代状況や同じ人種間の戦争と言う暴力を通じて覇権を掌握しようとする日本の侵略政策を痛烈に批判する内容を記しています。

前鑑は五つの項目で分けられていますが、第一、日清戦争の性格を糾明して、第二は帝政ロシアの極東政策と日本の過失問題を言及し、第三は露日戦争の原因、当時の西欧列強の態度や韓国の立場を説明し、第四は日露講和条約をアメリカ領土であるポーツマスで締結した理由を指摘して、そして最後には、日帝の大陸侵略に対する警鐘の順にて敘述されています。

以上の序文と前鑑についての要約説明だけでは「東洋平和論」の全体内容を理解することはとても難しいのですが、安義士が1910年2月17日、関東都督府の高等法院長との面談記録である「聴取書」の内容の中に、安義士が書こうとした「東洋平和論」の部分に対する記録が一部残っています。

その内容は次のようです。

◎東洋の中心地である旅順を永世中立地帯と定め、常設委員会を作り紛争をあらかじめ防止し、

◎韓中日の3ヶ国が一定の財政を出資し、共同銀行を設立、共同貨幣を発行して貧しい国をお互いに助け、

◎東北アジアの共同安保体制の構築と国際平和論を創設することと、

◎ローマ教皇庁もこの地域に代表を派遣して、国際的承認と影響力を持つようにすることなどがあげられました。

今から100余年前、人類の普遍的価値と幸せを追い求めようとした安義士の「東洋平和論」はヨーロッパ地域のEUと現太平洋国家のAPEC、そして今日、活発に論議されている「東アジア共同体論」の基本となったのです。

まだ、周辺強大国の軍備増強と北核問題から安保不安が造成され、我が民族の宿願である南北統一問題などが解決されていない中で、安義士が主唱した「東洋平和論」を私たちは尊い教訓にしなければならないと思います。

韓国訪問報告

魏 亜玲

2017年4月9日

〇はじめに

人間自然科学研究所の平和事業が20数年にわたって行ってきた平和事業の道程において、また、今日の世界情勢の厳しさの増している中で、小松社長が安重根義士記念館・大韓民国國家報勳處より3月26日に主催される「安重根義士殉国107周忌祈念式典」に、そして3月25日、弁護士崔鳳泰弁護士をはじめ弁護士団体より桂山（ゲサン）聖堂にて500人参加の安重根義士追悼式に招待されました。

今回の韓国訪問は小松社長が長年にわたって段取りしてこられた平和事業スタートの入り口として行ったもので、このチャンスを平和事業に最大限に生かすように北京から、新華社世界問題研究センター研究者、張可喜様にも来て頂きました。南京大虐殺記念館 元館長の朱成山様に来て頂く予定でしたが、公務のご都合にてキャンセルされました。その代わりにスピーチの原稿を頂き、韓国の関係者に共有しました。

なお、張可喜様は2016年1月北京で出版した『対立から共生へ 小松昭夫の「和の文化」の理念と実践』という書籍を日本語版の出版に向けて再編集するために3月28日～4月1日まで資料の収集にご来松、4月1日から9日まで東京で滞在されています。

※安重根について、添付資料（「安重義士殉国107周忌追慕式」パンフレット）参考。

安重根は、韓国では東洋平和のために国のために伊藤博文日本初代総理を殺したという義挙を行われた人で、「英雄」と称讃、尊敬、祈念されている、日本ではテロ殺人犯人として死刑にされたことが知られている。

〇日程

年 月 日	日程
3月24日(金)	・大邱（デグ）で元慰安婦李ヨンスさん、弁護士団体7人様と懇談会 ※主催：崔鳳泰弁護士をはじめ弁護士団体
3月25日(土)	・桂山聖堂にて安重根義士追悼式へ参加、 ※主催：安重根研究所（弁護士団体、大邱カトリック大学校等） ・HEEUM 日本軍「慰安婦」歴史館訪問
3月26日(日)	・「安重根義士殉国107周忌追慕式」式典に参加、 ・安重根義士祈念館見学、 ・国際親善交流会に参加

	※主催：安重根義士紀念館と大韓民国國家報勳處
3月27日(月)	コマツコリア見学 夜「進士宅」という韓国料理店で、「英雄」雑誌の朴社長等6名 の方と国際親善交流会、 主催：「英雄」雑誌の朴社長
3月28日(火)	帰国 仁川(12:30)～米子(14:00) 張様：16:30～出雲風土記の丘、神魂神社
3月29日(水)	張様 午前 小泉八雲記念館、月照寺、松江城 午後 周藤弥兵衛銅像、切通し、御陵、熊野大社
3月30日(木)	張様 午前 古代出雲歴史博物館、韓国神社（日御崎神社内） 午後 仁摩電器、石見銀山、新羅神社
3月31日(金)	張様 午前 弥生の森博物館、お昼から 社内会議
4月1日(土)	張様 午前 小松電機産業新入社員入社式 午後 荒神谷博物館、銅剣現場 JAL284 16:25 出雲～17:45 東京(羽田)へ
4月2日	張様 横浜在住の友人と面談
4月3日	張様 午前 日中科技文化センター (凌様)
4月4日	張様 11:00 星野一彦様面会、14:00 宮本アジア研究所訪問(宮本雄二氏)
4月5日	張様 12:00 飯沼和正様と面会
4月6日(木)	張様 15:00 孫崎享様面会、18:00 小松社長、中川先生、堀内先生と面談
4月7～8日	張様 フリー
4月9日(日)	張様 中国国際航空便にて、帰国

○参加者

張可喜様 新華社世界問題研究センター研究者
磯江公博様 株式会社エナテクス 常務取締役
一般財団法人人間自然科学研究所 監事
大畑拓治様 仁摩電器株式会社 代表取締役
小松社長
魏亜玲

○大邱（デグ）における活動について

・元慰安婦の李ヨンスさんの弁護士団の皆様との懇談会

3月24日夜、大邱で元慰安婦の李ヨンスさんの弁護士団の崔鳳泰弁護士様が主催される懇談会が行われ、7名の方と懇談していました。当方関係者9名で、計16名の懇談会でした。

懇談会では、崔鳳泰様が今でも戦争がまだ終わっていない、なぜかという戦争に関わっていたすべての国で条約していないからである、早く条約を結んで戦争弁償を行っておかないと問題が解決できないと思うと、話しておられました。まだ戦争中だとの認識が示され、日本側への弁償裁判訴訟は今でも続いておられます（添付資料参考：2017 年韓国の戦後補償裁判の現状と課題 弁護士 際鳳泰（チェボンテ））。

また、崔様より安重根義士が処刑判決されて殉国まで1か月あまりしかなく、「東洋平和論」は最後の10日間で序論だけを書かれ、処刑が判決された2月14日から殉国された3月26日までは「平和期間」として祈念すべきと提唱されました。

小松社長より、竹島問題のある島根県生まれ育ちです。元朴槿恵大統領のお母さんが亡くなられた年、初めての韓国訪問の時から歴史に興味を持つようになった、社会の問題から、平和事業へ、日本、韓国、中国などアジアだけでは解決するのは難しいと思う。隣国に友人もできた今、バージョンアップにして安重根義士の精神を蘇って世界の視線で活かしていけばいいと、話ししておられました。

南京記念館の元朱成山様が公務のご都合にて予定された韓国訪問をキャンセルされた代わりに頂いたメッセージは事前にコマツコリア尹代表理事の手配で翻訳された原稿を読まれ、皆さんと共有しました。

張可喜様より小松社長の誘いで初めての韓国訪問した。小松社長の「和議」思想に感銘しており、「対立から共生へ小松昭夫の和の文化の理論と実践」を中国語で出版した。「和議」思想で中韓日にあるいろんな問題が解決できると、話しておられ「和の理論」の重要性を強調されました。

李ヨンスさんは既に90歳の高齢となっていますが、元気で活躍されており、東洋をはじめ世界の平和のために200歳まで生きると話していました。



左から李ヨンスさん、磯江さん、
崔弁護士とご婦人
右から金美正さん、小松社長、張先生、
もう一人の弁護士



出前左：白修凡弁護士、コマツコリア朴さん、
李恵映弁護士、奥から左：白様奥様（夫婦と
も弁護士）、金顧問、尹代表理事、大畑社長



韓、日、中代表として乾杯
崔鳳泰弁護士、小松社長、張可喜様



李ヨンスさんと小松社長

・大邱 桂山（ゲサン）聖堂における安重根義士追悼式

3月25日、大邱 桂山（ゲサン）聖堂にて、朴鳳泰弁護士団体、大邱カトリック大学校が中心となっている安重根義士研究所より主催される500人参加の安重根義士追悼式に参加させて頂きました。

まず、安重根義士について講演され、安重根紹介の映像を見せられていました。また、式典では、小松社長と張可喜様に挨拶させて頂きました。

学生も大勢参加していました。司会者の白修凡弁護士様が学生に向かって、「学生の皆さん、弁護士になる志願があるか？」と、問いかけられたら、「ある」と、大勢の学生が回答したところ、「将来、弁護士になったら安重根義士のために弁護くださいね」と、学生に期待している意を表されていました。将来弁護士になる希望者から一人の女性学生が前に出て白弁護士より自分の弁護士のバッジをプレゼントされた場面もありました。その後はカトリック教より、厳粛な儀式、安重根義士祈念ミサが行われました。皆様が真剣の顔をして歌ったり祈祷したりしておられました。



小松社長挨拶、金美正さん通訳



張可喜先生挨拶



教会での儀式の様子



司会者白様が高校生に弁護士バッヂをプレゼント



カトリック式の安重根追悼儀式



桂山(ゲサン)聖堂主催側関係者と記念撮影



旧日本軍 慰安婦記念館訪問



中国茶店でミーティング

○安重根義士殉国107周年忌祈念式典

3月26日、安重根義士記念館にて、安重根義士記念館と大韓民国國家報勳處より「安重根義士殉国107周年忌祈念式典」が開催されました。

式典では、小松社長が安重根義士の遺書の斡旋や安重根義士の平和論を活かすための活動が評価され、大韓民国國家報勳處より「感謝牌」（感謝状）を贈呈されました。

※海外では小松社長をはじめ日本人2人、中国1人（お父さんの代わりに授与）でした。作文コンテストの表彰対象が学生となっており、幼い小学生も表彰されました。

※スケジュール（詳細は参考資料を参照）

- ・ 開式
- ・ 国民儀礼
- ・ 略伝奉読
- ・ 最後の遺言朗読
- ・ 追慕式辞
- ・ 内賓追慕辞
- ・ 追慕公演
- ・ 感謝牌の授与
- ・ 作文コンテスト
- ・ 献花
- ・ 安重根義士追念歌 斉唱
- ・ 閉式



安重根義士紀念館と大韓民国國家報勳處より小松社長に「感謝杯」を授与



小学生への表彰



式典会場の様子



学生より安重根義士を讃える斉唱



海軍からの献花



安重根記念式典会場にて

安重根義士曾孫 安度勇氏（小松社長右隣）



龍谷大学の李洙任教授（前列左から2番目）

をはじめとする学生達と記念撮影

李洙任教授：「安重根と東洋平和論」
書籍を出版



安重根
記念式
典会場
—当方
関係者

○国際親善交流会

3月26日夜、安重根義士殉国第107周年忌、「国際親善交流会」が開催され、招待して頂きました。小松社長と張先生が挨拶されました。

小松社長より、「私は島根に生まれ、島根で育った。島根県で42年前に事業を起こしやっている。この朝鮮半島、特に「竹島の日」が登録して以来、今はもっとも困難の状態となっている。107年前、「東洋平和論」が誕生され、この想いを現在に蘇るようにするのが今の私達の責任だと認識している。日韓の問題だけではなく、人類史の視点から見る必要がある。小さい人類、今もそれぞれの役割しており、様々の立場を活かして一緒に頑張りましょう」と挨拶されました。



小松社長挨拶



張可喜様挨拶

張可喜先生より、「北京から来た。今回は初めて韓国訪問した。昨日、カトリック教会の祈念式典、そして今日の安重根義士祈念館主催の祈念式典に参加させて頂き、大変感動させられた。韓国のたくさんの友人と会い、また日本からの友人とも会った。これらはすべて安重根記念館のお蔭で感謝している。実は、日本の小松昭夫先生より、是非来てくれとの強い要望に応じてきた。小松昭夫先生にも御礼を申し上げる。本来ではもう一人の仲間、南京記念館元館長の朱成山氏と一緒に来ることになったが、朱氏は公務の都合にて来られなかったので、朱氏を代表して安重根記念館及び、小松社長に感謝の意を表す。朱氏は長いスピーチ原稿を書いてくれた。記念館に届い

ていることと思う。感想は次の3点。1、初めての訪問で安重根義士の偉大な精神が韓国の国民に非常に深く浸透されていると感じた。これは素晴らしいことだと思う。2、安重根義士は中国でも知名度が非常に高い。安重根義士のことを知ってから英雄として尊敬している。共産党政権も国民党政権も政治的食い違いがあるが、安重根義士に対しての認識が一致している。これは非常に素晴らしい事だと思う、3、安重根義士の「東洋平和論」は今でも生きていると思う。それは韓国、中国、日本の三か国の共通の目標を目指して打ち出したと思う。互惠、共生して3か国の国民が一緒になってアジアをはじめ世界の平和に貢献できると信じている」と挨拶されました。



真ん中：安重根の曾孫 安度勇様

○「英雄」雑誌朴社長より有識者による日韓親善懇親会

3月27日夜、「英雄」雑誌朴昌宰社長より「進士宅」という韓国料理店の一室で有識者による日韓親善懇親会を開催され、安重根記念館新任館長 李英玉様、元銀行勤めの金東鎮様、元軍人、「英雄」顧問 金英夫様、大学名誉教授 柳永烈様、北朝鮮から脱北された崔成国様（漫画家）、そして金顕哲顧問と懇談していました。

朴社長より安重根義士が完成されていなかった平和論の続きを私達で完成させようと話されていました。

張可喜様より、安重根義士が中国では幅広く知られている。国民党でも共産党でも、孫文、蒋介石や、毛沢東、周恩来、習近平でも英雄として尊敬している。これはとても重要であり、有意義のことである。安重根のことは中学校時代で知っていたが、今回は殉国107周年忌に祈念式典に参加させて頂き、感動した。自己紹介：小松社長の支持者、宣伝者である。東京滞在、トータルで12年間、小松社長がビジネスもよくやっているだけではなく、平和事業をやっていることに、そして小松社長の「和譲」思想に大変尊敬している。カント哲学者によると、通常の状態では戦争の状態である。平和は創造するものである。人間は高級動物で、智慧を持っている。戦争や暴力、一時静になってもまた紛争が起こる。解決する方法は小松社長の「和譲」を活用しなければならない。これは韓国の南北、三か国の問題の解決の一番近い道である。小松社長の思想に魅力させられた。中国で呼びかけており、できれば中、日、韓、北、ロシアなどの人々と一緒に頑張りたいと思うと、話しておられました。

大学教授柳先生より、今日の会合は日韓親善の会と聞いたが、100周年忌の親善交流会の際、小松社長が安重根を世界の英雄にすべきだと言っておられた。私も同感である。

安重根が世界人類のために、命をかけられた。韓国では愛国者、英雄だとなっている。今日の中日韓においてもいろいろとあるが、三か国の平和、親善のために行うきっかけとなることを期待していると話しておられました。

李英玉記念館館長より（成均館大学校名誉教授）、家で安重根の位牌を祈りながら育った。

2013年に大学生に奨学金制度を作った。審査のとき、安重根思想についてよく勉強する学生に与える。毎年4、5名の学生に奨学金を与えている。英雄である安重根を世界に知らせるために学生が英語を勉強している。旅順で日中韓学生コンクールをやっている。日本の学生と交流するよう広げているところである。107周忌イベントに寄付しているが、遺骨探すことに力が足りなかったのではないかと、話しされました。

金英夫顧問より、父親が独立運動して5年、7年、2回にわたって捕まえられたことがあり、国家を守るための自分の使命だとの教育を受けて育った。その中で、朴社長が若者のために「英雄」雑誌を作ることに感銘している。東洋の平和、世界の平和のために一生懸命にやっている小松様に感謝していると話していました。

元銀行マンで春バート博士記念事業会、金 東珍（キム ドンジン）会長様より、ハルバード博士（The Hulbert Memorial Society）という方が韓国で初めて賞を与えられる外国人、韓国で英語教師していた。日本の韓国侵略に反対されていた。この人の記念館はまだない。これから作るようにする。

崔成国様（1979年生まれ、37歳、独身、脱北7年間）より、平議大学卒、南北統一のためにやっている。最近まで北にいた。平議で8年間、映画やアニメをやっていた。不法のことをしていたため（日本と北の関係が悪化とともに日本、中国のものをコピーして販売した？）、脱北した。4人の家族が失って、3人だけが韓国に入った。経験したのは武器ではなく、意識が悪いと思う。朴社長と出会って、仕事ができるようになった。意識が変わらないと平和にならないと話しました。

※漫画を出版している（ストーリー：韓国と北との違いについて、70年も離れているためたくさんの方が違ってきた。

小松社長より「記念館の李局長に大変お世話になっており、この度、新しい館長が女性で期待している。韓国、日本はアメリカの「核」に保護されていて先に見えなくて混乱しているが、北朝鮮は混乱していない。安重根義士の「東洋平和論」の想いを現在に蘇って戦後責任を果たすのが私達の責任である。事業家だから目的ははっきりしている。目的は、

文字で表している。手段として、目標を3つ設定する。目標は絵、数字で表せる。龍は9匹の子が産まれた。でも1匹も龍になれなかった。人類は、火と言葉を使う。火は、火薬→核、食を作る、言葉はチームを作れる、文字→印刷、そしてスマートフォン。The Hulbert Memorial Society氏は小泉八雲と似ている人で、対比してやたら良い。と、お話ししていました。



写真：左から崔様、柳様 ゆんさん、金様、金様、小松社長、朴社長、張先生、金顧問、魏

○コマツコリア訪問

3月27日、コマツコリア訪問しました。事務所と同じ7F新シート加工工場を見学しまし

た。休憩部屋もあり、溶着場など、レイアウトが合理的で綺麗に整備されています。



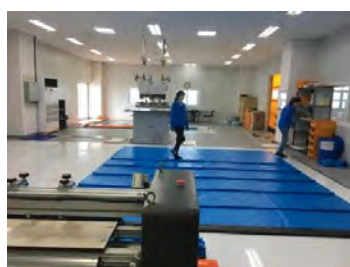
シート加工工場入口



工場玄関に入ったところ



シート加工場へ（皺があまり見えない）



シート溶着工場



1 階の組立工場



創立記念日表彰状を授与



1F 組立工場玄関にて



7F 事務所にてコマツコリア
の皆さんと記念撮影

所感_魏

この度、安重根義士殉国 107 周年忌祈念式典にご参加させて頂く、この貴重なチャンスを頂き、ありがとうございました。

大邱での安重根義士研究所より主催される、桂山（ゲサン）聖堂での祈念ミサも、安重根義士記念館と大韓民国國家報勳處より主催される安重根義士第 107 周年忌祈念式典も初めての体験であり、どれも印象深く感じました。祈念ミサでは神父をはじめ皆さんが真剣な顔をして祈祷したり歌ったりしておられたことに大変感動しました。

安重根義士記念館の式典で安重根義士精神を高揚する活動に貢献された方々へ感謝牌（感謝状）を贈呈されたり、小学生への作文コンクールを表彰されたりしていること、そして小松社長と親しく交流しておられる方々、大邱弁護士団体の皆様や 90 歳の元慰安婦の李様、そして「英雄」雑誌の朴社長の仲間達との懇談などを通じて韓国の皆さんにとって安重根がいかに偉大な人で、尊敬されているのか、肌で感じ、再認識しました。特に崔弁護士よ

り安重根の処刑宣告から実行されるまでの期間を平和期間にしようとの提唱、安重根記念館の新館長の李様より「安重根の位牌を祈る中で育った」との話が印象的でした。

安重根義士について、韓国では、東洋平和のために国のために命をかけられたことで英雄として称賛、尊敬されていますが、日本では、テロ殺人犯と扱いされています。このことを最近になって初めて知った龍谷大学の学生が国際親善交流会でショックだったとの話も印象的でした。立場によって視点、認識も違いますので、北東アジアをはじめ世界平和のために違う立場のことを共有、共感すること、そして、安重根の東洋平和論を活かすことがとても重要なことだと痛感しました。

以上。

パラダイムシフトが 21 世紀の未来を拓く
（安重根義士 107 回忌を契機に）

2017.4.7

文責：株式会社エナテクス 磯江公博

はじめに

明治42（1909）年10月26日、日本の初代内閣総理大臣の伊藤博文が、中国黒竜江省のハルビン駅でロシアの蔵相と会談中、朝鮮の民族主義活動家・安重根に射殺されるという事件が起きた。日本では暗殺者とされる安重根は韓国では英雄である。3月26日は安重根が処刑された日であり、韓国では毎年記念行事が開催されている。今回は殉国107周年となる追慕式で、記念館に対する長年の支援と協力に対し、人間自然科学研究所 理事長小松昭夫氏に感謝状が授与されることとなった。併せて、韓国中部に位置する大邱のカトリック教会、桂山（ゲサン）聖堂で初めての追悼式が行われた。

この2つの行事に同行する中で、日韓の間に存在する竹島問題、慰安婦問題、徴用工賠償保障問題、日本海呼称問題、仏像盗難事件、日本産水産物輸入問題、日韓軍事情報協定締結問題等々、山積する諸課題に積極的にかかわっている弁護士崔鳳泰（チェ・ボンテ）をリーダーとする大邱弁護士団の日韓の現状に対する認識に触れ、朴槿恵大統領罷免後の朝鮮半島・韓国の現状に対する率直な意見を直接感じてこようと思って参加することとした。

また、この行事に、中国で『対立から共生へ小松昭夫の「和の文化」の理論と実践』を出版した新華社世界問題研究センターの張可喜氏が初参加されることとなった。氏から見た安重根、韓国に関する意見を聞くことも楽しみだ。

1. 日程

- 3月24日： 大邱にて弁護士崔鳳泰氏をはじめ大邱弁護士団と懇談会
元慰安婦の李ヨンスさん同席
- 3月25日： 桂山（ゲサン）聖堂にて安重根義士映像及び講演、追悼式
HEEUM 日本軍「慰安婦」歴史館訪問
- 3月26日： 安重根義士記念館にて追慕式
安重根義士平和思想国際交流会
- 3月28日： 帰国

2. 大邱での式典

2-1. 安重根義士とは

安重根義士の 107 周年記念式典参加を主の目的とした訪問であったが、私自身、安重根義士について知ったのは 7 年前の 100 周年の記念式典に参加した時である。伊東博文側からの視点しか認識のない自分にとって、安重根側の視点での評価が、韓国では「暗殺者」から「英雄」に変わる現実があり、この違いこそ日韓に存在する多くの課題・問題の原点である。安重根義士についてネットで調べた概要は次の通りである。

安重根義士は 1879 年 9 月 2 日、現在でいう朝鮮民主主義人民共和国の南西部にある村で、両班という貴族階級の長男として生まれ、裕福な生まれだったとされている。父である安泰勳は科学に合格して進士の資格も得ている知識人でもあった。

1907 年 7 月、大韓帝国皇帝の高宗が日本の圧力を背景に譲位することになった。これに憤慨した安重根は妻や子を朝鮮に残してウラジオストクに亡命。その後しばらくして「大韓義軍」という抗日活動を行う組織に所属した。1909 年 10 月 26 日、当時の大日本帝国の韓国統監であった伊藤博文がロシア帝国の重臣との会談のために満州ハルビン駅に到着した際、安重根が伊藤博文ら一行に対して拳銃を 7 発射撃した。

そのうち 3 発が伊藤博文に命中した。伊藤博文は致命傷を負って、程なくして息を引き取った。享年 68。その後、一旦安はロシア帝国側に 2 日間身柄を確保されたのち、日本側に引き渡された。そして関東州の旅順に移送され、そこにある関東都督府で裁判を受けることになった。



東洋平和論の思想家安重根義士

6 回の審理ののち、1910 年 2 月 14 日に死刑を宣告された。同 3 月 26 日に絞首刑に処せられた。またこの期間に自叙伝「安応七歴史」を記している。また、自叙伝を書き終えたのちには「東洋平和論」という思想書を書き始めたが、既に処刑日時が迫っていたために未完に終わっている。また、「東洋平和論」においては、日露戦争で日本が勝利したことを賞賛した上で「白人の侵略に対抗するためには「東洋人」(文脈から、特に大日本帝国・大韓帝国・清を指していると思われる)が団結しなければならない。しかし日本が隣国を虐めている現状は団結できない。よって現状を打破するために伊藤博文を殺害した」といった論調が記載されている。

日本では好意的な評価は受けない事が多い。安重根に思想的背景があった点は多くの者が認めるところではあるが、それでも「犯罪者、テロリストであった」と評価される場合が多い。

大韓民国では抗日の英雄とされる。同国では朝鮮の保護国化や韓国併合について、大日本帝国による侵略行為であると見なしている。よって、安重根の暗殺はそれに対抗するための行動であったとみなされ、高い評価を受けている。特に安重根が提唱した「東洋平和論」は三国（日本・中国・朝鮮（韓国））の相互の信頼に基づく国家間の連携が必要、東洋の平和とアジアの諸国の独立は、当時はどんなに実現困難であっても、ひるまずたゆまず、外部の力、例えば「天神の能力」をもってしても、決して消し去ることのできない「アジア人の義務」であり、そして「人間の使命」であり、「歴史的義務」である、と考えた。具体策として・3 国による東洋平和会議の組織 ・共同銀行設立共同貨幣発行 ・2 か国語以上話す青年による平和軍運営などがある。

2-2. 桂山(ゲサン) 聖堂

韓国中央部、大邱にある桂山(ゲサン)聖堂で安重根義士追悼式が初めて行われることになった。

会場となる桂山(ゲサン) 聖堂は、元朴槿恵大統領の父親朴正熙（パク・チョンヒ）元大統領と母親陸英修(ユク・ヨンス)女史が 結婚された場所でもあり、聖堂の内部には韓国初の神父、金大建(1822-1846)神父の腕が入っているという話もある。神父、金大建は最初のカトリックの司祭であるだけでなく、カトリック教 103 位聖人の一人である。この聖堂はソウル(ミヨンドン聖堂)、平壤(グワンフリ聖堂)に続いて国内で 3 番目に建てられたゴシック様式の聖堂である。



ゲサン教会での追悼式

この聖堂で、大邱弁護士団の崔鳳泰(チェ・ボンテ)弁護士が中心になって、500 人を募り初めての追悼式が開催された。安重根はカトリック教徒であり、聖堂で開催することで安重根の志を、大邱に根付かせようとの試みである。どの宗派の行事でも、私自身には人間の本質に繋がる



挨拶する小松理事長

心穏やかな時間である。式典の最後に、司会を務めた白修凡（ペク・スボン）弁護士が会場に呼び掛けた。「弁護士の仕事は正義で人々を救う貴重な仕事です。安重根も勇気をもって正義を実践しました。この中で弁護士になって人のために働こうと思う人はありますか？」と。すると、一人の高校生が手を挙げ、前に進み出た。白弁護士は彼女の勇気と決意に対し自らの弁護士バッヂを外しプレゼントした。安重根・協会・弁護士の力が彼女の将来に託されたような一場面であった。

2－3. 大邱での懇親会

大邱の弁護士会メンバーが追悼式典前日の夕食会に招待してくれた。弁護士の崔弁護士を中心に若手弁護士も加えたメンバーとの夕食会となった。元慰安婦の李ヨンスさんも同席。3 年ぶりの再会だが 90 歳になっても元気はつらつ。「安倍を辞めさせましょう！」と厳しい発言も飛び出し、「李ヨンスさんは、これ程お元気なら活躍して 130 歳まで生きることができますね！」と話を向けると「世界平和のために 200 歳まで生きますよ！」と、元気な言葉が返ってきた。

日本 4 人、中国 1 人、韓国 11 人の計 16 人の夕食会である。小松理事長が日本を代表して挨拶。「島根県に生まれ竹島問題のある 72 歳。元朴槿恵大統領のお母さんが亡くなった時に初めて韓国を訪れ、歴史に対して興味を持つようになった。社会問題から市場、産業を創ることから始まり、隣国に友人もできた今こそ、安重根の志を受け継ぎ、新しい世界、新しい時代にその志を蘇らすことが重要である。安重根の時代は東洋だったが、今の時代は世界を見る時代、その流れが広がることを祈念する」。次に、南京記念館の元館長の朱成山さんのメッセージが読み上げられた



韓国・中国・日本を代表？する要人

（朱元館長は安重記念館から今回の追悼式に公式招待を受けていたが、諸般の事情で欠席となった。内容についての概略は別途参照）。

食事会では、各人が順番にコメントを披露。中国からの張可喜（元新華社記者）氏が小松氏の「和譲」思想について披露。日中関係の本質を、『対立から共生へ 小松昭夫の「和の文化」の理論と実践』の書籍にまとめた「和の思想」の研究が新しい未来を拓くと力説した。せっかくの機会と考え、私もパラダイムシフトについて意見を述べ、安重根の獄中で書き下ろした論語から引用



仁的环境下で和やかな食事会

した遺墨 2 章を紹介した。

宴もたけなわ、「小松理事長が総理、張可喜氏が主席、崔ボンテさんが大統領の立場で『和の文化』の思想を基に日中韓の平和について論ずれば数々の問題が即刻解決可能だ」と、司会役を務めた白スポン弁護士の乾杯で散会した。



安重根の遺墨から作った愛用のしおり

3. 安重根義士 107 周忌追慕式

3-1. 安重根義士記念館式典

安重根義士殉国 107 周忌追慕式が約 400 名の参列者の見守る中、国歌斉唱、国民儀礼、安應模理事長追慕式辞に続き、星になって「懐かしい金剛山」の歌が 2 曲奉げられた。続いて感謝碑の授与が宣言され、日本人の小松昭夫理事長、牧野英二教授、そして韓国研究員（中国ハルピン記念館の資料提供等に努める）の 3 人に授与された。



107回記念式典で安重根をたたえる少年少女



感謝状を授与された小松理事長

式典では、海軍兵士 5 人も献花。子供たちを対象とした作文コンテストの優秀賞の授与式も行われ、安重根義士の志を国家戦略の中に生かそうとする韓国政府の思惑がにじみ出た演出となっていた。マスコミ関係者の取材も多く、107回

になっても安重根義士は韓国国民の体の中にしみ込んだ国家の英雄である。日本からは、島根の高校生 13 名と龍谷大学生 13 名も参加していた。



安重根に向かって敬礼する海軍兵士

李英玉新館長（女性）の新体制となった記念館の李恵筠事務局長の熱い想いが隔々まで表現された式典となった。

3-2. 安重根義士 平和思想国際交流会

事務局長の李恵筠さんの司会で、安重根の孫の黄恩美さん、ひ孫の安度勇さんの出席で開催。

各界のリーダーが出席した会となっているため、長い挨拶の繰り返しとなっていたが、出席者の龍谷大学李洙任教授は、新任理事長の安應模さん、事務局長の李恵筠さんが共に女性であることを理由に、『とにかく男性社会が中心であった韓国がようやく女性が活躍できる社会となった。これからの歴史を作っていくのは男性ではなく、女性である。



交流会に参加したメンバー

「History」から「Herstory」の時代へ』とジョークを交えた挨拶だけは記憶に残っている。また、参加した 13 名の龍谷大学の 2 人の学生が、『伊藤博文を射殺した安重根は韓国側からは「暗殺者」でなく「英雄」であり、安重根が東洋の平和を望んでいたことを知った。若い自分たちが新しい視点で行動しなくてはならない。私たち 13 人の若者の目が未来を見つめている』とはっきりとした口調で意見を述べた。



意見発表した龍谷大学学生

中国からの張可喜氏は、「韓国民が安重根の精神を本当に大事にし、自分のこととしている。安重根の評価は 107 年前の死から評価が非常に高い。東洋平和論は今も生きている。この論は 3 か国が共通に進むべき目標。平和、協力、共生と一緒にやっていけば世界に大きく貢献すると思う」と挨拶された。

3-3. 牧野英二氏について

小松理事長と同時に感謝状を授与された牧野英二氏は安重根義士の評価を研究し、国際学術会議等で発表をしている。特に 100 回忌となる 2009 年 10 月 26 日の韓国ソウルの学術会議で発表した内容を紹介する。

安重根の「東洋平和論」とドイツ哲学者イマヌエル・カントの「永遠の平和論」を手がかりに、実現すべき「東洋平和」、望ましい「東アジア共同体」の構想を定義した。過去・現在・未来という三つの歴史的次元に即して過去の出来事を語り、特に未来世代に向けた視点から「東洋平和論」の 21 世紀的意義を明らかにした。東洋平和



国際交流会に参加した日本メンバー（牧野氏は小松氏の右隣）

論の「特にアジアの平和と安定のためには、中国・韓国及び朝鮮半島・日本の三国の相互の信頼に基づく国家間の連携が必要」との主張には、三国国民が積極的に耳を傾ける努力が求められる。既に「ヨーロッパ連合」(EU) が実施しているきわめて現実的な「平和」のための具体的提案である。

国会でも議論された「東アジア共同体」構想の問題は、アメリカ発経済危機の克服の経済対策の手段として「経済危機の克服」という課題に目が向き、政治的・文化的・道徳的・宗教的な課題に目が向けられていない点に問題がある。また最近では「環境共同体」の構想も重要。こうした見解が具体的に実現されるには、東アジアの安定と平和が不可欠の前提となる。戦争は、最大の環境破壊の原因であり、核兵器は地球を破滅させる。

「東アジア連合」の理念づくりは、単なる経済的な利益追求や環境対策に終わらない、東アジアの人間に相応しい包括的なパートナーシップの構築が求められる。「東洋平和論」はカントの提唱した「永遠の平和論」と響きあうことで、21 世紀のグローバル時代に生きる私たち東アジア人を結ぶ新たな絆となるはずである。 (東洋平和と永遠の平和：牧野英二参照)

4. 「慰安婦」問題

4-1. 慰安婦歴史館訪問

大邱にある HEEUM 日本軍「慰安婦」歴史館を訪問した。日本軍「慰安婦」被害者たちが経験した苦痛の歴史を忘れずに記憶し、日本軍「慰安婦」問題の正当な解決のために働きかける空間として旧日本式の建物を改修し建設された。また、問題解決を通じて平和と女性人権が尊重される社会を作るために尽力する「実践型歴史館」として位置づけられている。



日本館を改修した歴史館

HEEUM (ヒウム) とは韓国語で「希望を集めて花を咲かせる」という意味を込めた略字で、1920 年代の日本式 2 階建ての木造建築を改修した歴史館である。日本の多くの若者の寄付金を集めて建設されているという。歴史館の李インスン館長によると、2階の展示場は日韓双方で建設に向け運動した内容が展示しており、「諸問題を共に話すことから平和への道が始まる。これからは交流が続くことを願っている」と力強く述べられた。

4-2. 崔弁護士的主張

訪れた慰安婦歴史館では崔鳳泰 (チェ・ボンテ) 弁護士を交えての意見交換会が行われた。

崔ボンテ弁護士は、「2017 年韓国の戦後補償裁判の現況と課題」と題して、2015 年外交当局間の日韓両国間で合意した、日本軍慰安婦問題について「軍の関与の認定、謝罪及び反省、10 億円の日本政府資金拠出と完全かつ最終的に不可逆的な解決を核心とした外交的妥結」に対し、法律的に未解決な課題を残しているとしている。



崔弁護士からお茶の提供(端が崔弁護士)



慰安婦問題は日韓で大きく見解が異なる

婦問題の正義による解決であると主張する。

そして、解決する道は「両国の行政府が両国の司法府の判断を尊重しながら、法治主義デモクラシーを強化する形で、包括的解決のために共同努力することだ」と主張し、外交で解決する問題ではないとする。締めくくりに、現在も 120 年間の日清、日露戦争は継続中だ。平和条約は今日まで日中韓の間で交わされていない。したがって賠償問題は終結していない、としている。

弁護士という立場で思考する崔鳳泰（チェ・ボンテ）弁護士の主張はもっともであるが、小松理事長の「対立・統合・発展」の思考回路がなくては、問題はより複雑化していくと痛感した。

4-3. 日本大使召還

韓国南部・釜山の日本総領事館前に設置された日本軍「慰安婦」問題を象徴する少女像への日本政府の対応として、一時帰国（召還）させた長嶺安政駐韓大使の帰任時期について「未定だ」と述べ、問題解決へのめどが立たない状況であったが、4月4日付でようやく終止符が打たれた。大使を戻した理由について、5月9日予定の大統領選挙までの政権移行期にある中で、情報収集に力を入れ、次期政権に備える。また、北朝鮮問題に対処するうえで、日韓間の高いレベルでの緊密な情報交換、緊密な連携の必要性を述べた。

政府レベルでは「慰安婦」問題に対して、日本政府が「日韓合意は国と国との約束だ。両国が国際社会の前で明らかにした合意であり、国際社会に対する責務がある」と強調し、韓国政府は公式の反応を出してはいないが、韓国外務省関係者は「日本政府の決定は既に承知している。大使の帰任をきっかけにし、日韓両国の意思疎通がより緊密に行われることを期待する」として日本政府の帰任決定を歓迎した。

すべての『慰安婦』被害者が人間としての尊厳を回復してこそ真の解決となる。そのために日本政府は韓国政府と協力して誠実に力をつくさなければならないのは当然であるが、4月6日の今日、99歳の元慰安婦がまた一人死亡し、慰安婦被害者238人のうち生存者は38人になった。すべての被害者を納得させる措置になっていないという事実があり、韓国国民の約7割が反対している世論調査も出ている。



釜山領事館前の少女像

5. 中国からの初参加

5-1. 新華社世界問題研究センター 張可喜氏

今回の訪問で初の韓国訪問となった元中国新華社記者の張可喜氏は、2015 年 12 月 15 日北京で「対立から共生へ、小松昭夫の平和理念と実践」中国版出版パーティーの主催者だ。その際、発起人として張可喜氏が研究会の立ち上げを発表され、翌年 2016 年 1 月 9 日、北京百望山森林公園本無堂で設立会が開催され、関係者 13 名で構成される委員会が発足した。北京における「和の文化研究会」について、設立に向けてのメンバーのコメントが素晴らしい。ここに紹介する。

「人民中国」編集者 張哲氏は、小松氏が提唱する「和の文化」への共感、「理念と実践」への感動が研究会発足に至った経過。中日友好を大切にしている私たち平和者のために一つの新しいプラットフォームを提供してくれたと称賛した。



2015 年北京で開催された出版パーティー

中国国家図書館の準研究員 羅瑛氏は、「永遠の隣国として」というテレビ番組を作って日本の歴史責任に対する認識を明確に伝えた。また、小松氏の世界平和事業について「太陽の國 IZUMO」構想から「平和環境健康特区」構想を経て「世界平和センター」構想まで仕上げた実績とその間



挨拶する特別招待された張可喜氏

の平和活動が「天道は勤勉に報い、正義は恩に報いる」を引用し、2013 年のオランダ・ハーグ「カーネギー平和宮殿 100 周年」記念活動の一つである「世界平和事業化 20 人展」に選ばれた事、2014 年ウィーン平和博物館より「平和大使」の名誉賞を与えられたことを評価した。

フリー作家の柴全富氏は、「和の文化」は日中関係の改善に非常に重要として、日本侵略戦争による中国軍民の死者は 3500 万人、経済的損失は 6000 億ドルにもかかわらず、中国人民は平和を愛する国民であり、中日は隣国であることの現実、日本の軍国主義が中国人民に借りた「血債」（侵略戦争により与えた被害）への中国人の報復を考えて

いないこと。日本の軍国主義と平和を愛する日本国民との区別、「歴史を鑑とし、未来に向かう」の精神を強調。戦争責任を戦前・戦時・戦後責任に分類する考えに同調し、「和の文化」の思想に対して、高い見識のこの思想が平和共存の金の鍵であり、共同发展を実現させることができるとしている。

5-2. 南京大虐殺記念館 元館長 朱成山氏

中国抗日戦争史学会 副社長、南京国際和平研究所 所長 研究員 南京大虐殺記念館 元館長である朱成山氏は、今回の式典に参加予定されていたが急遽、諸般の事情で来館できなくなった。朱成山氏からそのことに対し、お詫びのメッセージが寄せられた。要約を紹介する。

『朱氏は、安重根義士を尊敬し、中国で安義士の物語と勇敢精神が多くの国民に共感されており、朱氏自身も三年前、安重根義士の英雄的偉業を讃える遺跡として「安重根記念館」を中国黒竜江省ハルビン駅に建設、開館される際のエピソードを例え、安重根義士と運命的なつながりが

あると述べている。また、安重根義士との縁を結んだ小松昭夫氏について「対立の文化から共生文化へ」の理念に大変感心し、「人間社会の発展には有史以来一つの法則がある。それは、対立から統合、発展へと繰り返す」との哲学的な理念に非常に賛同し、小松氏を先見の明を持たれる企業家だけではなく、驚くほどの洞察力に満ちた国際的平和研究者だと認識し評価している。



2015 年国家公祭に招待された小松理事長と朱成山館長

朱氏の歴史認識として、歴史の展示と継承する目的は、「民族の恨みを覚えさせるためでもなく、さらに紛争のためでもなく、歴史の教訓から学び、歴史の過ちを繰り返さないように、暴力、流血と恐怖が二度ないように、アジアをはじめ世界恒久平和事業構築のため」だとし、23年間にわたって南京大虐殺記念館の館長として務め、有益な試みをしてきた。その試みを共有させて頂きたくとし

て、その試みには「歴史と平和の間には共生関係があり、人々の不斷の努力によって、歴史の記憶が世界平和を構築させる力になる」とし、23年間の南京大虐殺記念館の館長として務めを果たしたその成果とは、

- 1、大虐殺記念館は、歴史博物館であるが、同時に平和博物館とした
- 2、平和学をしっかり根付かせるように中国で平和学に取り組んだ
- 3、積極的に平和学研究を行い、研究成果を発表した

の3点とし、この研究成果が世界平和の持続構築に役立つとしている。最後に、内心が平和であれば世界も平和となる、人々が心に平和があれば世界にも平和があるはずだ。皆様、われわれに世界恒久平和のために一緒に努めましょう。』と結んでいる。

6. 北の脅威、急変する世界情勢

世界のいたるところでテロが発生し、4月6日のニュースではシリアで猛毒サリンを使用したと思われる空爆が行われ、80人超の死傷者が出た。米中首脳会談が実施されている翌7日には、猛毒サリン使用に強く抗議し、米国トランプ政権はシリア政府の軍施設をミサイル攻撃した。

一方、東アジアの情勢も予断を許さない状況となっている。4月5日には北朝鮮が弾道ミサイルを日本海に向けて発射、国連安全保障理事会は、安保理決議への重大な違反にあたるとして、「強く非難」。日米は北朝鮮の脅威が新たな段階に入っていることを確認し、日米外務・防衛担当閣僚会合（2プラス2）を早期に開催することで一致した。この安保理決議には、同日、米軍の高高度迎撃ミサイルシステム（THAAD）の一部装備が韓国に搬入されたことに反発する中国も同意した。

韓国中央日報は、「THAAZ は北朝鮮の核、ミサイルから国民と財産、米局の兵力の保護と生存に必要な某業兵器だ」と主張。一方で「配備に反対する国民をもう一度説得し、中国とロシアにも誠意をもって説明することを政府に望む」としている。一方米国は、「限界を超えた北朝



ミサイル発射を繰り返す北朝鮮

鮮」に対して先制攻撃に言及し、奇襲攻撃の可能性は最大限に達した。「自前の核」に対抗するには「先制攻撃しかない」と言及。

今回の訪問で、ソウル市内の明洞商店街は中国人でごった返していた風景が一変し、マフラー（ヒジャブ）をしたイスラム系女性だけが目に映った。韓国での朴槿恵元大統領の弾劾・罷免・起訴、経済の混迷、THAAZ 配備をめぐる中国の圧力（ロッチ、還流ドラマ、観光制限）、大統領選挙等等など政治経済が混迷している。

7. 野田一夫先生シンポジウム

7-1. 野田一夫先生

4月8日に島根県で（財）日本総研名誉会長野田一夫氏の、「我が反骨人生 人生・祖国・時代」というテーマで講演が予定されている。野田先生は、日本の大学は不当に教育と実践を軽視しすぎると考え「実学教育の重視」を掲げて多摩大学設立、初代学長に就任。またベンチャー企業のための社会基盤の貧しさを憂い、1985 年ニュービジネス協議会設立に当たり初代理事長を務められ、第 2 回ニュービジネス大賞を受賞した小松理事長との縁で今回のシンポジウムにつながったと伺っている。

野田先生に対する情報を収集したが、週刊東洋経済の見出しには「母国を愛しても国家は信用すべからず」「論ずるより創るが楽し」「強力な構想力を発揮する人物が必要」等、ワクワクするタイトの論説が述べられている。

野田先生は、昨年ある雑誌でソフトバンクの孫正義氏と対談した際の孫氏の印象として『彼が 30 年も昔の僕との会話を克明に覚えていたことに驚いた。“夢”と“志”の違いについて、僕は「夢は誰もが心に描く快い願望だが、志は人々の願望を実現せんとする厳しい決意だ」と彼に説いて聞かせ。以来、孫君はその言葉を片時も忘れずに生きてきた』とコメントしている。

その孫氏が東京から約 3 千キロ離れたモンゴル南部のゴビ砂漠の風をとらえ、日本へ電気として送ろうという壮大な構想を発表した。東京電力福島第一原発事故のあと 2 年半経過した時、ソフトバンク社長、孫正義（56）が打ち出した「アジアスーパーグリッド」である。

八雲立つ日本・出雲から陽が昇る
我が反骨人生 人生・祖国・時代 野田 一夫 先生



一般財団法人 日本総合研究所名誉会長
一般財団法人 社会開発研究センター名誉会長
多摩大学名誉学長、県立宮城大学初代学長
事業構想大学院大学名誉学長

1927 年生まれ。
1952 年東京大学社会学部卒業（卒業社会学）。
52 ～ 55 年同大学大学院特別研究生（企業経営論）。55 年
立教大学赴任し、助教授を経て 65 年教授。この間 60 ～ 62
年マサチューセッツ工科大学スチュワードフェロー（企
業経営の国際比較）。65 年～ 80 年立教大学教授。この間
67 年同大学経営学研究所設立に当たり初代学長（70 年まで）。
同 70 年（財）日本総合研究所設立に当たり副理事長の
もとで理事・初代所長。同 75 年ハーバード大学東アジア研
究所フェロー。同 81 年（財）日本総合研究所理事長
（2010 年まで）。同 85 年（社）ニュービジネス協議会設立
に当たり初代理事長（87 年まで）。89 年多摩大学設立にあ
たり初代学長（95 年まで）。93 年（社）日本マネジメント
スクール会長。97 年（県立）宮城大学設立に当たり初代学
長（01 年まで）。
現在、多摩大学名誉学長、（財）日本総合研究所名誉会長、（社）
日本マネジメントスクール会長、（社）全国経営者団体連合
会会長など。

著 書
1958 年 現代の経営（自由国民社）、ピーター・ドラッカー著の翻訳、1960 年 日本の豊後（ダイヤモンド社）、1963 年 戦後日本の経済成長（岩波書店、共著）、日経経済図書文化賞受賞）、1964 年 創造する経営者（ダイヤモンド社）、ピーター・ドラッカー著の翻訳、1965 年 戦後経営史（日本生産本部）、1966 年 日本会社史（文藝春秋社）、1966 年 明日の経営（読売研究所出版）、1967 年 創業（中央経済社）、1968 年 松下幸之助 その人と事業（光文堂出版）、1969 年 昭和経営史（日本生産本部）、1976 年 企業と社会（丸井）、1985 年 オアサスの時代（講談社インターナショナル）、1986 年 E・ヴェーゲルと語る日本企業の生命線（PIT 研究所）、1989 年 企業の本質（清水弘文堂）、1991 年 大学を創る（北村四郎書房）、1999 年 私の大学改革（産経大出版部）、時の道、1999 年 人の道（西沢社）、2000 年 大学の改革（1 N 通信社）、2002 年 未来を創る力「ものづくり」のすすめ（講談社 共著）、2003 年 「今、日本の大学をどうするか」（自由国民社 共著）、2012 年 働いたら、歳を喰ら（KJ 経営者デビュー新書）

島根原子力発電所国際プロジェクト構想から
真の地方創生時代が始まる！

4/8 入場料 無料 時間 14:00 ~ 18:00
開催日 土曜日 場所 小松電機産業 太陽ホール
島根県松江市乃木権堂町 735-188 瀬戸テクノパーク

シンポジウムの案内パンフレット

—モンゴルの風力や太陽光、ロシアの水力といった再生可能エネルギーを、国境を超えた送電線で日本に持ってくる—。その具体化に向けて、ソフトバンク子会社とモンゴルの投資会社がつくった合併会社が、ゴビ砂漠で風や日照量の調査を進めている。原発10～7基分に相当する。雨も少なく、太陽光発電も期待できる。人口280万人強の同国の国土は、日本の約4倍の156万平方キロメートル。孫氏は「モンゴルの風力発電コストは1キロワット時あたり2～3円。日本までの送電コストを考えても、（10円弱とされる）原発より安くできる」と話している。



孫正義氏の「アジアスーパーグリッド構想」

7-2. パラダイムシフト

日本を取り巻く世界情勢が急変している。日本・島根県の対岸に位置する朝鮮半島情勢は「一瞬先は闇、何が起ころうともおかしくない」状態である。米国は、「限界を超えた北朝鮮」に対して先制攻撃に言及し、奇襲攻撃の可能性は最大限に達した。米国のシリア軍攻撃で、「北の核」に対抗するには「先制攻撃しかない」とする方針がゆるぎないことが証明された。

「北の核」に韓国・日本が核武装すれば脅威を防ぐことができるとの主張もある。しかし、歴史が証明するように、いったんことが起これば人類は果てしなく地獄へ向けて突き進むことは証明されている。歴史から学び叡智を結集することが急がれる。今こそ、パラダイムシフト（その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが革命的にもしくは劇的に変化することをいう。「発想の転換」や「見方を変える」、「固定観念を捨てろ」、「常識を疑え」「斬新なアイディアにより時代が大きく動くこと」）で、人類史が抱えている問題を「災い転じて福となす」の視点で動かす時だ。

7-3. 「真の地方創生の時代が始まる」シンポジウム

「島根県原子力発電所国際プロジェクト構想から真の地方創生」と題したシンポジウムが開催されることとなった。311の福島第一原発事故は、日本人の原発に対する意識を大きく変えてしまい、「将来の原発依存度はゼロ」という声が日に日に大きくなり、ついに民主党では「将来の原発ゼロ」を政策スローガンとすることを決定した。確かに、311で原発の安全神話は大きく崩れ、原発を抱えることのリスクが表面化し、福島第一原発で避難を余儀なくされた住民は、今この時も非常に辛い生活を強いられている。



2014年島根原発構想を発表

また、6年が経過した現在でも、事故による汚染水流出問題に対する措置で、最大の売り先である韓国が福島など8県の水産物に対して輸入を全面的に禁止し、生産過剰でホヤ貝7600ト

ンの廃棄処分をしなくてはならない等の事例のように、日本全体が海外からの風評被害にさらされるなど、程度の差はあれ多くの日本人が原発事故の被害を受けている。

では、すぐにでも、太陽光や風力など自然エネルギーへの依存度を高める努力を行い、原発ゼロを目指すことができるのだろうか。小松理事長は、エネルギー政策における原発ゼロ・自然エネルギー転換へのしっかりとした確かな広がりに加え、「島根原発を世界遺産に」構想を実現することだと提言している。

島根原発1号では、原子力発電所の廃炉が決まっている原発の最終処理の研究炉として、廃炉に伴う世界的技術の叡智を結集させ、稼働していない最新鋭の3号機では、放射能にさらされず、世界中の研究者が2号機とともに現物・現場・現実から原理・原則を学ぶ最高のステージの提供ができる。このことが世界で初めての「世界遺産」から、島根県が平和・環境・健康の「平和の事業化」の観光の中心となり、日本の地方創生事業のスタートとなるのだという。野田一夫先生をお招きしたシンポジウムでどのような意見が交わされるか非常に興味深い。

8. 考察

「慰安婦」「徴用工賠償」問題に象徴されるように、国家間で合意を見た事案であっても、個人の人権として法律的に未解決な問題、法治主義デモクラシーを強化する形での解決は困難を極める。国家間に存在する課題は山積しており、優先順位をつけることは困難であるが、共感のステージで国家と国民を分けて考え、「和の文化」の思想に対し、高い見識と勇気をもってお互いに発展させることから始める。

そして、パラダイムシフト（その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが革命的にもしくは劇的に変化することをいう。「発想の転換」や「見方を変える」、「固定観念を捨てろ」、「常識を疑え」「斬新なアイデアにより時代が大きく動くこと」）で21世紀の未来を拓くことの重要性を痛感している。

例えば今回提言された「島根原発を国際プロジェクト」として、平和・環境・健康の本質から観光産業につなげ、地方創生時代を創る構想。さらに、世界の複雑難解な課題が山積する国連の場を、政府代表から組織される国連に加え、国民代表を加えた国民国連構想など、あらゆる問題を共感のステージで対立・統合・発展に導く「和の文化」を提言する小松理事長の理論。

小松理事長が以前、中国のインタビューに対し「隣人は選択できない。数千年の歴史の中で日中両国は大部分の時間、平和的に共存していた。近代になって生じた不幸な事態を、両国が日中関係の主流を見て取り、平和発展を堅持するよう希望する」と述べた思いが、『禍転じて福となす』のことわざのとおり、どのように東アジアに広がり、地球規模に行き渡ることができるか考える機会となった今回の韓国訪問であった。同行の機会を戴いた小松社長をはじめ、日程のすべての手配をいただいた魏亜玲さん、異なったジャンルから適切なアドバイスを戴いた大畑様に感謝します。

以上

参考：後日開催された「真の地方創生の時代が始まる」シンポジウムの様子



（左側：磯江公博、中央：野田一夫先生、右側：小松昭夫理事長）

2017 年韓国の戦後補償裁判の現状と課題

弁護士 崔鳳泰(チェ・ボンテ)

1. はじめに – 自業自得

2016 年は 2015 年 12 月 28 日の韓日政府間、日本軍慰安婦問題に関する合意による衝撃から始まった。周知のように韓日両国の外務当局は日本軍慰安婦問題について、軍の関与を認定、謝罪及び反省、10 億円の日本政府資金拠出と完全かつ最終的に不可逆的な解決を核心とした外交的妥結をみたのに、完全かつ最終不可逆的解決どころか、新しい葛藤を作りだし、現在日本大使が召還されてひと月経っても韓国に帰って来られない最悪の韓日関係が招来されている。このような外交的破綻の直接的な契機が、2015 年末の両国外交当局間の合意に対する反発から起きた釜山日本領事館前平和の少女像設置だったことを考えれば、2015 年の外交当局間の無法な野合が現在、韓日平和に最大の障害物であることを、よくみせてくれる。

外交当局間の最終的解決にもかかわらず、問題は法律的に未解決な課題を残している。日本軍慰安婦被害者の賠償請求権が現在、韓日両国の司法間で実体法的に存在し、法的に消滅してないという両国最高法院判所の判断が一致しているにもかかわらず、この法的問題を解決するために何の努力もなされてないところに、韓日両国の法治主義とデモクラシーの限界がある。韓日外交当局が司法を無視した結果、韓国では 2011 年 8 月 30 日の韓国の憲法裁判所の違憲決定の効力がまだ継続しているし、日本の最高法院判所の 2007 年 4 月 27 日の自発的責任履行勧告の法的効力も無視されている。

現在、韓国は、朴槿恵(パク・クネ)政権の憲法違反、法律違反の政治形態が招いたキャンドル・デモ革命の真っ只中である。2016 年 10 月 29 日の第 1 次キャンドル・デモが始まり 2017 年 3 月 4 日の第 17 次まで続いていて、100 万名以上が集まった第 3 次キャンドルデモを筆頭に、年間 1 千万人以上の市民が週末に憲法を守れという闘争をしていて、その核心の議題のうちの 하나가日本軍慰安婦問題の正義による解決である。

日本軍慰安婦問題をはじめ日帝による戦争被害者問題に対する正義による解決は、次期の韓国民主政府の樹立と合わせて、東アジアの緊急な課題になることは不可欠な現象とみられる。

この文では 2017 年現在、韓国の戦後補償裁判現況を概括して、今後の課題を論議してみようと思う。

2. 韓国の戦後補償裁判の現況：

イ、日本の戦犯企業を対象にした韓国国内の損害賠償

	被告企業	事件番号	原告及び請求内容	経過
1	三菱重工業 (広島徴用)	大法院 2013 タ 67587	亡朴チャンフンの訴訟引継人朴ジェフン他 22 名	大法院 2012.5.24.破棄差戻 釜山高等法院 2013.7.30.原告一部勝訴⇒ 現在大法院係留中
2	新日本住金 株式会社	大法院 2013 タ 61381	亡呂運沢(ヨ・ウンテク)他 3 名	大法院 2012.5.24.破棄差戻 ソウル高等法院 2013.7.10.原告一部勝訴⇒ 現在大法院係留中
3	三菱重工業 (勤労挺身隊)	大法院 2015 タ 45420	梁錦徳(ヤン・クムドク)他 4 名	光州地方法院 2013.11.1.原告一部勝訴。光州高等法院 2015.6.24.原告一部勝訴⇒ 現在大法院係留中
4	不二越 (勤労挺身隊)	ソウル高等 法院 2014 ナ 58797	金啓順(キム・ゲスン) 他 26 名 (被害者 13 名、死亡 4 名の訴訟引継人 18 人)	ソウル中央地方法院 2014.10.30.原告一部勝訴。ソウル高等法院 2014.12.10. 訴訟受付。 2016.4.6.推定期日(関連事件の判断を待機)
5	新日本住金 株式会社	ソウル高等 法院 2015 ナ 32310	郭(クァク)ヘギョン他 9 名、 各 1 億ウォン	ソウル中央地方法院 2015.11.13.原告一部勝訴。2015.12.1 被告抗訴状提出。2017.3.10. 弁論期日(11:30.西館 309)
6	三菱重工業 (広島徴用)	ソウル高等 法院 2016 ナ 2064327	洪(ホン)スニ他 63 名、各 1 億ウォン	ソウル中央地方法院 2016.8.25 原告一部勝訴。ソウル高等法院 2016.9.7.訴訟受付。2017.3.9. 弁論期日(14:00. 西館 413)
7	不二越 (勤労挺身隊)	ソウル高等 法院 2016 ナ 2084567	金オックスン他 4 名(被害者 5 名、 各 1 億ウォン)	ソウル中央地方法院 2016.11.23.原告一部勝訴。 2016.12.1.被告抗訴状提出。 2017.3.22.弁論期日(10:20.西館 413)
8	三菱重工業 他 2 名	ソウル中央 地方法院	李(イー)ギドン 他 251 名	2013.12.9 提訴、アジア太平洋戦争犠牲者韓国遺族会。

		2013 カ合 89049		2017.4.13. 弁論期日(11:40.東 館 562)
9	三菱重工業 (勤労挺身隊)	光州地方法 院 2014 カ合 1463	梁榮洙(ヨンス) 他 3 名、各 1 億 5 千万ウォン	光州地方法院 2014.02.27 訴訟 受付。 2017.1.13 弁論期日。2017.4.7 弁論期日(15:00. 403 号)
10	横浜ゴム(株) 他 68 名	ソウル中央 地方法院 2015 カ合 11064	徐(ソ)チャンド ン他 666 名	ソウル中央地方法院 2015.4.21 訴訟受付、アジア太平洋戦争犠 牲者韓国遺族会。2016.6.13. 期 日変更(訴状副本送達)
11	三菱重工業 (勤労挺身隊)	光州地方法 院 2015 カ 単 513249	金英玉(ヨンオク) 他 1 名、各 1 億 5360 万ウォン	光州地方法院 2015.5.22. 訴訟 受付。2016.11.22 / 2017.1.24 弁論期日。2017.4.25 弁論期日 (16:30.304 号)
12	不二越 (勤労挺身隊)	ソウル中央 地方法院 2015 カ単 92707	李チュンミョン (被害者 1 人、1 億ウォン)	ソウル中央地方法院 2015.5.22 訴訟受付。2017.1.19 弁論終 決。2017.3.16.宣告 (10 時、東 館 455 号)
13	新日本住金 株式会社	ソウル中央 地方法院 20 16 ナ 56389	鄭(チョン)ボギ ン(被害者金ゴン スの遺族)	ソウル中央地方法院 2016.8.19 原告一部勝訴。上告日 2016. 9.5、指定期日なし。
14	住友石炭鉱業 (変更後→住 石ホールディ グス)他 16 名	ソウル中央 地方法院 20 15 カ合 13718	宋(ソン)ヨンホ 他 85 名	ソウル中央地方法院 2015.5.22 訴訟受付。2016.5.6 期日変更。 2017.3.17.宣告期日(9:55. 東館 558)

(2017 年 1 月 25 日現在、勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会提供)

ロ、日本軍慰安婦に関連した訴訟(2015.12.28. 以後を中心に)

	被告企業	事件番号	原告及び請求内容	経過
1	外交部長官	ソウル高等 法院 2017 ナ 34263(ソウ ル行政法院 2017 ク合 55698)	宋ギホ韓日外交長 官会談関連、情報 非公開処分取消し 訴訟	被告、2017.1.23.控訴状提出

2	大統領秘書 室長	ソウル高等 法院 2017 ヌ 36528(ソウ ル行政法院 2016 ク合 57274)	民弁、韓日頂上電 話会談に対する録 音記録関連、情報 非公開拒否処分取 消し訴訟	判決宣告 2017.1.6.(月)原告敗 訴、2017.1.26. 控訴状提出、 控訴可否検討意見
3	外交部長官	2016 憲マ 253	請求人 姜(カン) 〇〇他 40 名 憲法訴願	進行事項: 公開弁論申請書提 出外交部、2017.1.24.法務法 人太平洋委任状提出
4	大韓民国	ソウル中央 地方法院 2016 カ合 552135	姜〇〇他 11 名 国家賠償請求訴訟 (韓国政府相手)	提訴 2016.8.31.(水) 1 次弁論期日 2016.12.2.(金) 2 次弁論期日 2017.1.20. (金) 11:00 3 次弁論期日 2017.3.17.(金) 11:00
5	日本	ソウル中央 地方法院 2016 カ合 580239	郭〇〇他 20 名 日本政府を相手に する損害賠償請求 訴訟 *cf.李オッ ソン他 11 名民事 調停申請	提訴 2016.8.31.(水) 1 次弁論期日 2017.5.17. 2 次弁論期日 2017.5.24. 3 次弁論期日 2017.5.31. 宣告期日 2017.6.14.

(2017 年 2 月 24 日現在、李サンヒ弁護士提供)

ハ、その他(憲法裁判所、紛争解決不作為違憲の確認)

	被告企業	事件番号	原告及び請求内容	経過
1	外交部長官	2012 憲マ 939	請求人 2,295 名 サハリン憲法訴願	提訴 2012.11.23. 審理継続中
2	外交部長官	2014 憲マ 888	請求人李鶴来(イ ー・ハンネ)他 10 名、BC 級戦犯被害 者憲法訴願	提訴 2014.10.14. 審理継続中

(2017 年 2 月 24 日現在)

3. 今後の課題 — 災い転じて福となす

イ、日本軍慰安婦問題

現在韓日間で懸案になっている日本軍慰安婦問題の法的解決課題の核心は、被害者個人が持っている賠償請求権をどう解決するかという点である。

この問題が早急に解決されなければ、韓国の国会で 2017 年 2 月に朴チュミン議員らが提出した「和解癒し財団」の解散を促し 10 億円を返還させる国会決議が国会の本会議を通過する状況になり、平和の少女像設置の量的、実質的发展につながるとみられる。2015 年の外交的野合が去年の釜山の平和の少女像設置につながったように、この問題の解決遅延は今後、韓国国内はもちろん、米国、香港、特に中国等での拡大につながることは勿論のこと、日本国内での設置に拡大するとみられる。

実際に最近、中国では韓国と連帯して、上海師範大学以外の一般人が利用する公園などに、共に平和の少女像を設置しようとする動きが起き、拡大発展している。

これとは別に少女像撤去に対する動きを牽制して、駐日韓国大使が民団の団長を通じて釜山の少女像撤去を強要したことに対して、駐日韓国大使を職権乱用及び強要罪で告発する動きがある。

韓国の外交部当局者は、外交公館の近くに平和の少女像設置は適切でないと主張するが、例えば東京の千鳥ヶ淵霊園のように、身元が確認できない無名の遺体が安置されている所に、平和の少女像を設置する勇気を外交当局が出さない限り、このような無責任な態度は国内の反発を起すだけである。参考に広島平和公園にある戦争被害者「禎子の少女像」(原爆の子の像)を考えれば、日本政府の二重の態度は韓国国民として理解し難い。

ロ、強制動員問題

韓国では 2016 年も、強制動員問題に対する被害者の勝訴判決が相次いだ。しかし 2012 年 5 月 24 日大法院の破棄差戻し判決以後、再上告された事件に対して大法院は最終判決を出していない。そんな中で大韓弁護士協会は、この間の推進戦略、即ち日本軍慰安婦問題を含んで包括的に解決する立場を変えて、日本軍慰安婦問題を一旦除き、再び日帝による強制点領下の「強制動員被害者人権財団」設立に関する特別法を立法化する方針を確定し、現在国会で立法ロビー活動を推進している。

ハ、文化財返還問題

対馬仏像返還と関わり、大田地方法院は 2017 年 1 月 26 日大田地方法院の 2016 カ合 102119 判決で、浮石寺(プソクサ)の仏像に対して浮石寺側の請求を認め仮処分まで認めたが、検察側が執行停止を申請し、現在執行停止の状況である。上の判決に対し

て法院は、証人 4 人の尋問、日本の大学教授の寄稿、対馬の郷土史学者の寄稿、仏像の火事の痕跡等を根拠に、過去に贈与や売買など正常な方法ではない、盗難や掠奪などの方法で対馬所在の観音寺に運びされ奉安されたと事実認定をしたが、これに対する判決内容は詳しく報道されていない状況の中、韓日間で新しい葛藤を助長する記事が横行しているのが実情である。

二、原爆被害者問題

在韓被爆者が米国政府と会社を相手に、謝罪と賠償を要求する訴訟を今年、8 月 6 日に提訴する計画が推進中である。最近日本で、被爆 2 世が日本政府を相手に 2 月 20 日長崎地方裁判所と 17 日広島で国家賠償訴訟を提訴したことに連帯して闘えば、大きな意味があるものとみられる。特に韓国の被爆者は現在、2011 年 8 月 30 日に韓国憲法裁判所の違憲決定を受けた状況なので、現在韓国政府の不作為が続いている違憲状況を活用し、国家公権力の憲法規範違反責任を追及できる立場にある。

4. 結論に代えて

最近、2 月初めの共同通信によると、日本では韓日議員連盟の日本側議員を中心に、いわゆる BC 級戦犯被害者に対する補償法案が推進されていて、この法案には 1 人当たり 260 万円の特別給付金を支給するという内容が紹介されている。この法案が制定されれば、韓日間で関係改善の良い信号になるとみられる。2015 年 12 月 28 日の韓日外交当局の司法府無視の外交的野合によって、韓日間の葛藤が癒されるところか韓日関係がより悪化している現在、解決する道は両国の行政府が両国の司法府の判断を尊重しながら、法治主義デモクラシーを強化する形で、包括的解決のために共同努力をすることである。法的正義を無視した外交的野合は、より大きな混沌をもたらすだけである。2010 年 12 月 11 日の韓日両国弁護士会の解決勧告を、政府は従わなければならない。

合せて原爆被害者に正義を回復する努力を、韓日市民社会が共同努力をする時が到来したことを確認しながら、発表を終える。

(仮訳：李洋秀)

歴史の記憶を世界平和構築の力として生かす

中国抗日战争史学会 副社長
南京国際和平研究所 所長 研究員
南京大虐殺記念館 元館長
朱 成山

2017 年 3 月 吉日

翻訳 魏 亜玲

私の古くからの友人である日本の小松昭夫先生と韓国の安重根記念館とが共同して、祈念館の開催される安重根義士記念式典と、大邱における「日中韓講演会」（暫定）への参加をご招待頂いていましたが、私は公務上の都合により出席できなくなったことについて、ここで、皆様に心よりお詫びと遺憾の意を表するとともに、適切な時期に安重根義士祈念館へ行き、韓国と日本の皆様に学び、歴史の研究経験の交流をするとともに、中日韓をはじめアジアの平和友好事業に微力ながら貢献できたらと期待しています。

私は、韓国の安重根義士様を大変尊敬しています。中国では、安義士の物語と勇敢精神がほとんどの人に馴染まれ、よく知られています。私には安重根義士と運命的なつながりがあります。三年前、安重根義士の英雄的偉業を讃える遺跡——「安重根記念館」を中国黒竜江省ハルビン駅に建設、開館される際、私は間接的に微力ですが、サポートと貢献をしました。それは、当時、日本外務省が中国当局に対して抗議されたときでした。中国関連官署より論説文を寄せるようにとの要請がありました。その要請に応じて、当日夜遅くまで文章を完成させ、2014 年 1 月 26 日付、「人民日報」に発表されました。テーマは「歴史の記憶を継承し、民族精神を発揚する——中国抗戦類博物館（記念館）建設と構築機能の一目」でした。

8 日、中国に巨大な影響力を持つ学術新聞「光明日報」に転載されました。この文章は直接に安重根義士の名前を出していませんが、中国にある諸種の抗日戦争博物館・記念館の役割の観点から、中国がなぜ抗日戦争博物館・記念館を建立しているのか、その必要性、不偏性、重要性について述べ、メディアを通して安重根記念館がハルビンで無事に開館されることができるように協力しました。19 日、ハルビン駅にある安重根義士記念館が無事に開館し式典が行われました。

私は、小松昭夫先生が創立し提唱されている「対立の文化から共生文化へ」の理念には大変感心しています。彼の見解では、「人間社会の発展には有史以来一つの法則がある。それは、対立から統合、発展へとの繰り返す」とのことです。私は小松先生のこの哲学的な理念に非常に賛同しています。ここから、小松先生は先見の明を持たれる企業家だけではなく、驚くほどの洞察力に満ちた国際的平和研究家だと認識しています。

小松先生によれば、安重根時代は北東アジアが不安定の時期であり、そのうち国同士の戦争から世界大戦まで至った。戦後、長い冷戦を経て友好交流が始

まり、経済も発展してきたが、今、過去の戦争の遺留問題や経済発展の歪みによる新たな不安定要素が現れ、世界が混乱に陥っているのを見て心配されています。そして、過去の戦争で残された負の遺産を活かし、明るい未来、恒久平和に向け、世界平和事業に取り込む強い意欲を見せ、世界平和記念館建立を提唱し呼びかけられています。これは、価値のあるアイデアと提言であり、人々が考えて努力すべきことだと思っています。

500 年前、中国の明時代の正徳 3 年（西暦 1508）、心霊学理論の王陽明氏が、貴州の竜場で「道」について悟り、次の哲学的理論を主張されました。つまり、「聖人之道、悟性自足」、「知行合一」です。「聖人之道」とは、現在の言葉で「平和之道」だと、私が解釈しています。

「悟性自足」とは、私たちに内心で感受させ、思考させて、実践、創造していくことだと解釈しています。「知行合一」の心霊学理論で平和を見ると、平和構築は完全なプロセスであり、内心から平和を認識しはじめ、平和行動を通して平和状態の実現と持続できるように促進しなければならない。それは、私たち一人一人に取り組みすべきことです。

長年にわたって、私はいつも次のことを確信しています。それは歴史と平和の間には共生関係があり、人々の不断努力によって、歴史の記憶が世界平和を構築させる力になることです。

私たちは歴史のために歴史を研究しているわけではありません。歴史の展示と継承する目的は民族の恨みを覚えさせるためでもなく、さらに紛争のためでもなく、歴史の教訓から学び、歴史の過ちを繰り返さないように、暴力、流血と恐怖が二度ないように、アジアをはじめ世界恒久平和事業構築のためです。したがって、私は、23 年間にわたって南京大虐殺記念館の館長として務め、有益な試みをしてきました。ここで、皆様とそれを共有させていただきます。

1、大虐殺記念館は、歴史博物館ではありますが、同時に平和博物館でもあります。当館は 1985 年 8 月に中国人民抗日戦争勝利 40 周年を記念してオープンしたものです。当時、小さな面積で、限られた展示内容で、研究レベルも低く、南京大虐殺の歴史展示場のような単一陳列館でした。1992 年に私が館長として引き継いで 23 年間努めました。

その間、私にとって転回点となる大きな影響を受けたのは、2001 年 12 月 13 日夜のことでした。その晩、アメリカのサンフランシスコ、サンタマリア大聖堂で、私たちは、アメリカのキリスト教、カトリック、ユダヤ教、仏教、イスラム教など、主要な 5 大宗教の 3 0 0 0 の方々と一緒に平和祈念式典を開催しました。5 大教会の方々は全米各地から、サンフランシスコに飛んできて、9・11 犠牲者のため（被害後 3 ヶ月）、南京大虐殺の被害者のため、世界平和のために祈っていました。5 大の異なる宗教の皆さんがカトリック教の教会に集まったことはそれまでのアメリカの歴史の中ではありませんでした。5 大教主と信者達がお経を読んで祈念している間、3000 人を収容する教会は大変静粛しており、皆が教会の雰囲気震撼させられました。このような場面は私にとって初めての貴重な体験で、大変良いヒントを頂き、平和だけは国境や民族、業種を超えたグローバルな唯一の大事なものだと感じさせられました。

サンフランシスコでの平和式典は私の従事している平和事業の転換点となっただけでなく、南京大虐殺記念館を平和構築のための施設とする道への転換点でもありました。その以来、平和がメインテーマとなり、記念館構築のキーワードとなりました。まず、記念館の構築理念では、過去の単なる歴史をテーマとした内容を過去の歴史と平和とのダブルテーマに変更しました。具体的には、博物館構築において、博物館の追加展示館のレイアウトに表現しています。

2007 年に博物館の拡大建設時、レイアウトについて、前半はまず歴史的展示、後半は平和パークにしており、立体面では、正面を平和ボートの形状とするように構築しました。

第二に国際平和交流の範囲を拡大することです。フランスのカン平和記念館、ロシアの大祖国戦争中央博物館、韓国の独立記念館、韓国済州島四三研究所など、平和博物館と数回も相互訪問したりして交流しています。

第三に平和関連の活動を増加させました。2002 年以来、毎年 12 月 13 日には単なる「南京大虐殺同胞犠牲者追悼式××周年」から「南京大虐殺同胞犠牲者追悼式&南京国際平和祈念式典」に変更しています。同時に、毎年 12 月 13 日には、中、日、韓の僧侶たちを招待して南京へ祈念に来て頂き、「世界平和法要」を主催して南京大虐殺の被害者の冥福祈念をし、魂を供養して頂いています。ほかには香港や大陸と台湾で活躍されているミュージシャンを招待して大型中国民俗音楽「平和の歌」を共同演奏して頂いています。この音楽団は南京や北京の以外にヨーロッパやウィーン音楽館で演奏しています。南京中小学校生により構成された「平和鳩合唱団」は福井市で開催された日本音楽祭にも出演されていました。中国の子供達の心の中に平和の根付かをしておくように、幼い頃から平和のために歌わせています。

2、平和学をしっかり根付かせるように中国で平和学に取り組んでいます。

2001 年から南京国際平和研究所を設立し、私は所長を兼務し、日本の立命館大学国際平和ミュージアム館 館長の安斎郁郎教授に名誉所長として兼務して頂いています。日本の立命館大学准教授の池尾靖志様の著書「平和学入門編」を翻訳して中国で出版（南京出版社 2004 年 10 月版）。

2015 年 1 月に南京出版社で、5 冊の西洋学者の平和学書籍の中国語版を出版しました。例えば、『平和学翻訳シリーズ：平和学研究の新パラダイム（アジア太平洋地域編）』。『平和学翻訳シリーズ：人民、平和と権力、紛争転換の実践』。『平和学翻訳シリーズ：人類安全保障の挑戦』。『平和学翻訳シリーズ：グローバル化に向け、環境、人間、エネルギー、食品、健康と水などの安全問題』。世界の平和学を中国で伝播と発展を推進させるために中国人に向け世界平和研究の状況とレベルを紹介しました。

昔から、「南京鑄鐘」がよく知られています。近年、私は、4 つの平和鐘を鑄造しました。南京大虐殺記念館内の「平和の鐘」以外に「世界平和の鐘」、「ポツダム平和の鐘」、「ロサンゼルス平和の鐘」を鑄造しました。上記の平和の鐘の銘文は皆私の手から出たもので、平和の理念を平和の鐘の中に溶け込ませています。

中日韓三か国の歴史の認識をベースにして、平和友好交流事業を促進するために、2012 年に南京で初めて「歴史認識と東アジア平和フォーラム」を開催しました。中日韓三か国から 147 名の専門家、学者に南京に来て頂き、南京紫金山の麓でパネルディスカッションを行いました。成功を収めたことで、今でも、年に一度の集まりが続いており、中国、日本、韓国より順番でホストとなり、維持されているフォーラムへとつながりました。特に、南京フォーラムでは、中国、日本と韓国の学者による歴史教科書の編纂まで促成させ、3 年にわたって、南京、北京、東京、ソウルで 10 回ほどシンポジウムを開催されています。2005 年 5 月、中日韓でそれぞれの国の言語で歴史教科書が出版されました。国際平和学を中国で根付かして開花させるために、私は南京大学、南京農業大学、南京東南大学で大学生に向け「平和学 ABC」を講義しています。また、市内コミュニティで、市民に向け「平和学：生存の科学」を講義しています。ほかには、南京教育委員会と提携して市内における南京中小学校で「南京学校キャンパスにおける平和」活動を行い、10 校の中小学校に「南京平和学校」を命名しました。また、南京市政府の関連部署と提携してコミュニティで平和創造活動を推進しており地域において、10 か所に「南京平和コミュニティ」と命名しています。

3、積極的に平和学研究を行い研究成果を発表すること。

私は発表した主な論文は次の通りです。

2014 年

論文「鄧小平が中国平和理論の偉大な発起者である」

発表 南京市社会科学界における鄧小平生誕 100 周年記念シンポジウム
194 期「社会科学」誌に掲載

2004 年 4 月 20 日

論文「歴史文化と南京平和構築を顕彰する思考」

発表 南京初回歴史名城博覧会
「文化と都会の性格ハイレベルフォーラム」、
唯一特等賞として受賞

2004 年 8 月

論文「生活における平和」

発表 雑誌「南京国際平和研究」第 3 号に掲載

2005 年

論文「民族和解構築の基 松岡環「南京戦・南京引き裂かれた記憶」
を読んだ感想

発表「抗日戦争研究」2005 年第 3 号

2006 年 11 月 10 日

論文「南京師範大学附属中学校が内外における有名な平和学校となる
ことを願う」

発表 2006 年 11 月 10 日付「南京日報」に掲載

2007 年

論文「南京国際平和都市構築の研究」
(江蘇省政府応用型社会科学一等賞受賞)

- 発表 「南京社会科学」雑誌 2007 年第 1 号
- 2008 年
- 論文 「歴史と平和をつなげる橋梁の構築」
- 発表 日中韓三か国北東アジア平和国際学術シンポジウム
日中韓三か国北東アジア平和国際学術シンポジウム論文集に
掲載 2008 年 12 月
- 2009 年
- 論文「南京大虐殺期間中には朝鮮軍人で構成された日本軍があったか」
- 発表 韓国「北東アジア歴史研究」2009 年 11 月号に掲載。
南京大虐殺期間中に朝鮮籍日本兵がいなかったことを明確化した
ことで、韓国学術界に広く好評された。
- 2015 年
- 論文 「南京記憶 は 平和に更なる多くのヒントを与える」
- 発表 2015 年 10 月 12 日付、「人民日報」第 5 版「評論」欄に掲載
同じ日付の「人民日報」海外版日本語版に掲載

なお、2008 年～2013 年 6 月まで、「南京都会平和宣言」という原稿を書いて
南京平和イベントで南京青年に代読され、その度、「南京日報」に掲載。

ほかには、平和学の著書を執筆出版しています。例えば、
「世界平和学概要」：2012 年 8 月号、南京出版社、出版。
「平和学概論」：2006 年 9 月、南京出版社、出版。
「未来のために歌う 朱成山の平和研究文集」（上、下冊）：
2009 年 8 月新華出版社出版
「歴史と平和の視点に立って 朱成山文集（上、下冊）：
南京出版社 2013 年 12 月出版

これらの平和学研究成果は、新聞雑誌でも書籍でも中国の社会に一定の影響
力を持っており、世界平和の持続構築への励みと呼びかけに役に立っている
ことと思います。

土地面積や人口、及び資源の規模から見ても、アジアは世界最大の洲です。
アジアはまた、人類文明の啓蒙と発祥地です。200 年前までは、世界の他の
洲はアジアと比較できません。しかし、200 年前以来、産業革命がヨーロッ
パで興るとともに帝国主義諸国が台頭し、資源や市場の奪いあいでは歴史が
大きく変化されました。18 世紀から 19 世紀までのアヘン戦争などの
侵略戦争を経て、2 回の世界大戦による世界の分割、再分割によってアジ
アは侵略の侮辱を集中的に受ける地域となりました。そのうちでも中国、韓
国などの国と地域は、より深い苦しみに陥っていました。当時の安重根義士
は個人の生死を恐れずにアジアをはじめ、世界平和を自分の責任として、
勇敢に日本軍国主義勢力と戦い、その精神が数えきれない有識者を感動さ
せられました。

第二次世界大戦後の世界は非常に大きく発展し、進歩しました。それ以来
の時代について多くの有識者がこのように認識されています。

19 世紀は、ヨーロッパがリードする時代でしたが、20 世紀はアメリカが世界を支配する時代でした。21 世紀は文句なしアジアが立ち上がる時代となります。アジアの台頭は、地球上の大事な事です。このプロセスにおいて、アジアの全体連合を促進させるために東アジア諸国の団結と協力しあうことが必要となります。

王陽明氏の「致良知」が「良知の学」、「良知の問」と称されています。特に「無心外之物」（万物は良知が現す時しか認識されない__魏 注）は人々に考えさせられる哲学であり、最も重要なのは人の心が行為を決めることであり、つまり、内心が明るいなら世界も輝くようになり、人々の内心に良知があれば世界にも良知があります。平和事業に置き換えますと、内心が平和であれば世界も平和となります。人々が心に平和があれば世界にも平和があるはずです。皆様、われわれに世界恒久平和のために一緒に努めましょう。

以上です。

2017 年 3 月吉日 北京

让历史记忆共生出建构世界和平的力量

中国抗日战争史学会 副会长
南京国际和平研究所 所长 研究员
侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆原馆长
朱成山

我的老朋友、日本的小松昭夫先生和韩国安重根义士纪念馆，共同邀请我参加此次安重根义士祈念仪式与日中韩学术研讨会，本人因公务在身不能按时出席，谨向各位表示由衷的歉意和遗憾，热切希望在适当的时候，能够前往大邱拜祭安重根义士，并向韩国和日本同行学习与交流历史与研究的体会，共同为中日韩乃至亚洲的和平友好事业贡献微薄力量。

我十分敬重韩国义士安重根先生，关于他的故事和勇敢精神，在中国几乎是家喻户晓、人人皆知。本人与安重根义士有缘，三年前，在安重根义士当年发生英雄壮举的遗址—中国黑龙江省哈尔滨火车站建成并开放“安重根义士纪念馆”时，我为此间接地作出过微不足道的支持与奉献。当时，因为日本外务省抗议中韩两国在哈尔滨筹建该馆，根据中国有关部门的要求，我奉命连夜写了一篇文章，在2014年1月16日《人民日报》上发表，题目是《承载历史记忆 弘扬民族精神—中国抗战类博物（纪念）馆建设与作用一瞥》。18日，在中国影响力巨大的学术报刊《光明日报》又全文转载。这篇文章虽然没有直接提名安重根，但从中国诸多抗日战争类博物馆、纪念馆发挥的作用角度，叙述中国为什么要建立抗日战争类历史场馆的必要性、普遍性和重要性，从舆论上配合该馆在哈尔滨顺利开馆。19日下午，位于哈尔滨火车站的安重根义士纪念馆举行开馆仪式。

我同时十分欣赏小松先生创立和倡导的“从对立文化走向共生文化”的理念。在他看来，“人类社会的发展，自有史以来有一个规律，即从对立，经过整合，获得和谐而发展，在新的发展中又产生新的矛盾（对立），再经过整合，获得和谐新发展，这样一个反复的过程”。我非常赞同他的这一哲学理念，并以此认为他不仅是一个有远见卓识的日本企业家，而且是一个有卓越见地的国际和平研究者。小松先生认为，“安重根时代，东北亚地区处于不安定时代，之后从两国之间的战争发展到世界大战。经过长时间冷战后，开始友好往来，发展经济技术。但令人担心的是目前世界又开始出现很多不稳定的因素”。小松先生极力想通过日本对过去战争留下的负的遗产，使社会转向平和的美好未来，为此使和平事业构想得以诞生，倡导和呼吁筹建世界和平纪念馆。这应该是一个有意义的创意和建议，值得人们去思考和为之努力。

500年前，中国明朝正德三年（公元1508年），心性学理论的鼻祖王阳明先生，曾经在贵州的龙场悟道，提出了“圣人之道、吾性自足”和“知行合一”的哲理。在我看来，在今天的语境下，所谓“圣人之道”，我们可以解读为“和平之道”；所谓“吾性自足”，就在于用我们的内心去感悟、去思考、去实践、去创造；如果用其“知行合一”的心性学理论看待和平，则和平建构应该是一个完整的过程，即从内心认识和平开始，通过和平行动、和平实践，去促进和平状态的实现和持续。这是我们每个人都要为之去努力的。

多年来，我始终坚信：历史与和平之间是有共生关系的，经过人们的不懈努力，历史记忆可以共生出构建世界和平的力量。因为我们不是为了历史去研究历史，展示和传播历史的目的也不是为了记取民族仇恨，更不是为了延续历史的纠结和纷争，而是为了吸取历史的教训，为了不再重犯历史的错误，为了不再有暴力、血腥和恐怖，为了构建东亚乃至世界的持久和平事业。因此，在我担任侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆馆长的 23 年间，做了一些有益的探索和尝试，在此向各位作一个介绍，与大家分享：

1、侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆既是一座历史博物馆，同时也应该是一座和平博物馆。该馆是于 1985 年 8 月纪念中国人民抗日战争胜利 40 周年建成开放的。由于当时占地面积小、展陈内容有限、历史研究水平不高等因素，该馆曾经是一座单一的纪念性的南京大屠杀历史陈列场馆。本人是于 1992 年到该馆就职履新的，在我担任该馆馆长 23 年时间里，对我影响较大的转折点，发生在 2001 年 12 月 13 日晚，在美国旧金山圣玛丽诺大教堂，我们与美国基督教、天主教、犹太教、佛教、伊斯兰教等五大宗教，五大主教从全美各地飞到旧金山，举行 3000 人的和平祈祷仪式，为九一一遇难者祈祷（遇难者 3 个月），为南京大屠杀遇难者祈祷，为世界和平祈祷。五个不同宗教走进一座天主教堂，这在美国历史上也是很少有的。在五大主教及其教徒们逐一念经的过程中，容纳 3000 人的教堂鸦雀无声，大家被教堂的气氛所震慑。这是我有生以来第一次经历这个场面，非常的受教益，感到唯有和平是跨国界的，跨民族的，跨界别的。

美国旧金山和平祈祷仪式是我从事和平事业的一个转折点，也是侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆和平建构的一个转折点。此后，和平成为主旋律，成为建馆主题词。首先从建馆理念上，由过去单一的历史主题变换为历史与和平双主题。具体表现在扩建馆的布局上，2007 年该馆扩建时，将平面布局的前半部为历史陈列，后半部分为和平公园，将立面上建成和平之舟的造型。二是拓展了国际和平交流的范围。先后与法国冈城和平中心、俄罗斯卫国战争纪念馆、韩国独立纪念馆、韩国济州岛四三研究所等和平博物馆，进行了多次双向的交流，具体为互办展览、互派人员互访。三是加大了和平相关的活动。从 2002 年起，将每年 12 月 13 日单一的“悼念南京大屠杀遇难同胞遇难××周年仪式”，改变为“悼念南京大屠杀遇难同胞遇难××周年暨南京国际和平仪式”。同时，每年的 12 月 13 日，邀请中、日韩三国的僧侣来到南京，在纪念馆里举办“世界和平法会”，超度南京大屠杀遇难者的亡灵，祈祷世界和平。此外，还邀请香港、台湾和大陆两岸三地的音乐人士，共同演奏大型中国民乐《和平颂》，除了在南京、北京演出外，还到欧洲维也纳金色大厅演出。组织南京中小学生成立和平鸽合唱团，参加在福井市举办的日本音乐节演出，使得中国的孩子们从小为和平而歌唱，让和平在他们的心里扎根。

2、致力于和平学在中国的推广，推进和平学的落地生根。2001 年开始，我们在成立了“南京国际和平研究所”，我本人担任所长，特聘时任日本立命馆大学和平博物馆馆长安斋育郎教授作为名誉所长，翻译了日本立命馆大学副教授池尾靖志著《和平学入门》一书在中国的出版（南京出版社 2004 年 10 月版），2015 年 1 月在南京出版社翻译出版了 5 本西方学者的和平学书籍中文版：如《和平学译丛：和平学研究的新范式（亚太篇）》；《和平学译丛：人民、和平与权力：冲突转化的实践》；《和平学译丛：人类安全的挑战》；《和平学译丛：全球化和环境挑战：21 世纪的安全观重构》；《和平学译丛：面对全球环境变化：环境、人类、能源、食品、健康和安全的观念》，向中国人介绍世界和平学研究的状

況和水平，意图推进世界和平学在中国的传播与发展。历史上，南京“铸钟”是很有名的。近年来，我先后推动 4 口和平钟的铸造，除了侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆内的“和平大钟”外，还先后铸造了“世界和平钟”、“波茨坦和平钟”、“洛杉矶和平钟”，上述这些和平钟的铭文，全部都出自我手，将和平的理念溶进和平之钟里。

为了促进中日韩三国的历史认知基础上的和平友好事业，2012 年在南京发起召开了首次“历史认知与东亚和平论坛”，邀请了中日韩三国 147 名专家学者到南京，在紫金山下座谈讨论，由于此次会议的成功，导致该论坛至今仍然保留，由中日韩三国轮流主办，每年一次。特别是在南京的那次会议上，促成了中日韩三国学者共同编撰历史教科书，经过三年时间，先后在中日韩三国轮流在南京、北京、东京、首尔等地召开 10 次研讨会，终于在 2005 年 5 月由中日韩三国的分别出版，由中、日、韩三国学者共同编撰，用中、日、韩三种文字版的历史教科书。

为了使国际和平学在中国的落地生根开花，我先后到南京大学、南京农业大学、南京东南大学给大学生们讲授《和平学 ABC》，到社区街道去市民们讲述《和平学是一门生存的科学》。我们还与南京市教育局合作，在南京市的小中学校范围内，举行创建“南京校园内的和平”活动，先后命名了 10 所中、小学校为“南京市和平学校”。还与南京市团省委合作，在南京市部分社区开展和平创建活动，命名了 10 所“南京市和平社区”，以调动和促进南京市的和平创建活动。

3、积极开展和平学的研究，发表了一批和平学研究的成果。我还先后在报刊上发表了《邓小平是中国和平崛起理论的伟大倡导者》，在 2014 年南京市社会科学届纪念邓小平同志诞辰 100 周年研讨会上论文，刊载在《南京社会科学》期刊总 194 期上；《彰显历史文化与构建和平南京的思考》，2004 年 4 月 20 日在南京首届历史文化名城博览会“文化与城市性格高层论坛”上发表，该论文获得唯一的特等奖；《生活中的和平》，发表在《南京国际和平研究》期刊 2004 年 8 月第 3 期上；《构建民族和解之基——松冈环《南京战：被割裂的受害者之魂》读后感》，发表在《抗日战争研究》2005 年第 3 期上；《愿南师附中成为一座中外闻名的和平学校》，发表在 2006 年 11 月 10 日《南京日报》上；《南京构建国际和平城市研究》（该篇文章获得江苏省政府应用型社会科学一等奖），发表在《南京社会科学》杂志 2007 年第 1 期上；《构建连接历史与和平的桥梁》，发表在 2008 年 12 月中日韩三国东北亚和平国际学术研讨会文集上；《南京大屠杀期间有朝鲜军人组成的日本军吗？》，发表在韩国《东北亚历史研究》2009 年 11 期上，廓清了南京大屠杀期间没有朝鲜籍日本兵的传说，受到韩国学术界的广泛好评。《南京记忆，给和平更多启示》，发表在 2015 年 10 月 12 日《人民日报》第 5 版“评论”专栏上，同一天的《人民日报》海外版还以日语刊登了全文（《南京記憶、平和に 更なる 多くのヒントを与える》）。我还执笔撰写了 2008 年至 2013 年 6 份《南京城市和平宣言》，在南京和平集会上由南京青年代表朗读，并一一发表在《南京日报》上。

无论从土地、人口和资源来看，亚洲都是世界上最大的洲。亚洲也是人类文明的启蒙与发源地。直到 200 年之前，世界其他各洲依然无法与亚洲相比。但是，近 200 年来随着产业革命在欧洲的兴起，帝国主义国家为争夺市场和资源，历史开始发生了重大的演变。从 18 世纪开始，经过 19 世纪的鸦片战争等一系列侵略

战争，直到对世界实行瓜分和再瓜分的两次世界大战，亚洲成为落后挨打、备受侵略凌辱的集中地区，其中的中国、韩国等国家和地区的苦难更为深重。当年的韩国义士安重根先生，不畏个人的生死，以亚洲和平乃至世界和平为己任，勇于向日本军国主义势力作斗争，其精神感动了无数仁人志士。

二战后的世界有了很大的发展和进步，许多有识之士都认为，19 世纪是欧洲起家和领跑，20 世纪美国人称霸，21 世纪亚洲将无可争议的崛起。亚洲崛起是地球上的大事，而在这一过程中，东亚各国的团结与合作，对促进亚洲的整体联合是必要的。王阳明先生曾经提出“致良知”，被称为“良知之学”和“良知之问”，特别是其“无心外之物”的论断，发人深省，其中最为重要的，就是人的心灵态度决定行为方式，意即内心的光明世界就会光明，内心的宽阔世界就会变得宽阔，人人内心有良知，世界就会有良知。如果根植到建构和平的事业中来，那就是内心的和平，世界就会和平；人人内心有和平，世界就会有和平。让我们大家一道为世界持久的和平去努力。

其中最为重要的，就是人的心灵态度决定行为方式，意即内心的光明世界就会光明，内心的宽阔世界就会变得宽阔，人人内心有良知，世界就会有良知。如果根植到建构和平的事业中来，那就是内心的和平，世界就会和平；人人内心有和平，世界就会有和平。让我们大家一道为世界持久的和平去努力。

2017 年 3 月于北京

＊韓国視察で感じた事＊

勉強不足ではありますが、私なりの視点でこの度、韓国でご同行させて頂いて感じたことをレポート致します。

今回、小松社長はじめ、魏様、株式会社エナテクスファームの磯江代表、韓国での合流させて頂きました張先生、人間自然科学研究所の顧問であられる金様、小松코리아代表の尹様、そして金美正様と主に一緒にさせて頂きました。

このメンバーの中で私なりにできることは、微力ではありながら、ビデオ撮影し、動画による形に記憶に残すことが私なりの使命だと勝手に判断し、そのように行動をさせて頂きました。

大きな枠で未来構想を見据えながら、図り切れない行動で実現されるのが小松社長、その部分を細分化し、分かりやすい言葉で的確に広めていかれるのは磯江様がお得意とされるところだと、また到底及ばないところだと感じながらも、横で学ばせて頂きながら、この度の5日間を、私なりに主に曲と動画で想いにさせて頂きましたので、ご覧頂けたらと思います。

映像上は一部、また音楽上は著作権上の問題もあると思いますので、内部関係者だけの共有とさせて頂けたらと考えます。

＊少しだけ私なりの今回の所感を言葉にさせて頂きます＊

・2回目の韓国、安重根義士の追慕式を主として参加させて頂くにあたって、まず私が歴史上の事に無知だったこと、また国よっての想いの違いを改めて感じました。

その人からの視点の問題、その国からの視点の問題、数々の想いの中で世界があるのだと、肌身で感じる事ができたと思います。

期間中、数々のお教えを小松社長、磯江様はじめ、数々の方にご指導頂いた中での一つに、「付加価値」という話の中で、「価値は人によって違う」というキーワードがありました。それと一緒に、問題とう点でも人によって違ってくる中で、どう対立→統合→発展に繋がるのか、その点を少しずつ自分なりにですが学ばせて頂きました。

まずは、歴史を知ること(小松社長のお教えに以前、知らないことが一番の罪と教わった)、そして相手の目線でも物事を考えること、そして共感する部分を集め、話し合いの場所(ステージ)を構築し、そこにおもしろ、おかしさを加えること。 まだまだ、たくさんの事柄はありますが、そういった流れを皆様で共有できたら全く違った世界が生まれあがることを元慰安婦の李様、大邱弁護士団体の方々、英雄の朴社長の主催で行われた会合の中で、特に体感できた事は、私なりの価値として大きな財産を得たと感じております。

それは、同じ国同士の日常の中にも、組織も、友人も、家族の中でも、楽しく持続的に生きていくために必要な力だと思いました。

・安重根義士平和思想交流会で同席させて頂きました、横浜の社会科の先生であられた鈴木様とお話しさせて頂く機会がありました。

私たちの世代、もしくは私の周辺だけの話かもしれませんが、様々な問題が絡み合っているのか、授業の進み方によってなのか、明治に入ってから歴史の授業がスピード感が増し、さっと終わってしまうという現状で、あまり学校では学べていない状態であることを話しておりました。

真の部分は、自分達自身の責任ではありますが。

実際、そういった事もあるという現状をお話し頂いた中で、私自身もこの度の韓国への視察前は、**長くこのような平和の活動が引き継がれるためには、どの世代も含めて、この問題に共感しながら、改善、改革、革新を図っていく教育の在り方が結局は必要なのではないかと感じておりました。**

この度、追慕式で学生を含め様々な年代の方々、また島根県からキリスト教愛心高校の学生、思想交流会では、龍谷大学の学生の方の発表等を含め、そういった事を重んじ教えておられる事に感銘を受けました。

「歴史に盲目なものは、現在 においても盲目である」

という言葉があるように、各国から見た歴史を学ぶことへの価値、また社会においても大いに役立ち、それが自分のや周りの人たちのためになることへの**認識に結びつけながら、教育の柱**を作ることが大事ではないかと思いました。

かくいう私自身が、経営においてもしっかりと歴史を学ばなければいけないと気を引き締め直すきっかけにもなりました。

・韓国に出発の1週間前から、私は腰痛を患っておりました。

出発当日が特にひどいもので、40分かけて寝床から立ち上がり、このままでは足手まといになると思いながらも、小松社長に途中リタイアの可能性のお断りをさせて頂き、ご快諾を得ながら飛行機に搭乗させて頂きました。

フライト中、磯江様に腰痛についてお話し頂いた中で、「腰痛の原因は脳が8割」というお教えを頂きました。

特に慢性的な痛みが続いてしまうのは、恐怖やストレスの要因があるそうです。

以下ネット上で調べたところ

{最新の研究によって慢性腰痛の人は健康な人と比べ脳の『DLPFC』という場所の体積が極端に減り、活動が衰えていることが分かってきました。

<DLPFC とは、背外側前頭前皮質（前頭前野背外側部）のこと。 複雑な認知行動、人格の発現、適切な社会的行動の調節に関わっているとされていて脳の中で最も進化した部位です。 一つの仕事に集中する能力の源泉である、この **DLPFC** がうつ患者の場合、機能が

正常に働いていないことが判ってきています。＞

痛みが強く、長引いている人ほど DLPFC の働きが低下しているそうです。

炎症が治まれば痛みはなくなると思われがちですがそうではありません。

炎症が治っても DLPFC が「痛みの回路」を鎮めないと腰痛はなくなるということなんです。

なので、腰の痛みが収まるには脳の DLPFC の活動が不可欠となっています。

ところが、DLPFC の活動が衰えると脳の「痛みの回路」の興奮を鎮めることが出来なくなり、その結果 腰は治っているのに痛みは続く、いわば「幻の痛み」に苦しめられることになります。

脳が元々持っている「鎮痛（ちんつう）の仕組み」がうまく働かないために腰痛が長引いてしまうのです。

DLPFC はなぜ衰えるのか？

DLPFC がなぜ活動しなくなるのか？ 最新の研究で腰痛患者が持つ「痛みへの恐怖」が関係していることが分かってきたようです。

脳の中で「痛みの回路」の興奮を抑える DLPFC。強い恐怖心が脳の中で生まれると DLPFC にストレスがかかります。このストレス状態が長く続くと、DLPFC の活動が低下し「痛みの回路」を鎮める指令が出にくくなり「痛みの回路」の興奮が続きます。

これが、幻の痛みが長く続くメカニズムの一つだと考えられています。}

という作用があることが分かりました。

それを理解したうえで、道中またはホテルで自分なりに言い聞かせたり、瞑想してみたりと実践しました。そして会合が都度、おもしろ・おかしく・たのしく・ゆかいに進んでいく活動の中で徐々に痛みが治まってきました。

もし、あのままだ単に痛みとだけ戦っていて、恐怖ばかりを感じていたら本当に途中リタイアになっていたかもしれません。

私事の話になってしまい、またその部分も勉強不足の中のお話で申し訳ないですが、人が自分の中の恐怖心もうまく見えていない状況の中で、世の中の恐怖が感覚的に人ごとのような状態である事が多い昨今、きちんと問題を把握すること。それを知ること初めて活かす事ができること。

そこから一人一人が自分なりにできることを考え、実行することが必要だと思います。

そのためには、脳が及ぼす人間への影響や感情というものの複雑に交わった関係への研究が不可欠だと感じるだけは感じました。これは小松社長のお得意とされるところだと思いますので、また聴き合いできる状態に私自身の脳がなりましたら、ご指導頂けたらと思います。

韓国視察の後、野田先生のお話の中にありました、「まずは、余裕を持つこと。そして余裕を持った人が余裕のない人を助けること。そして、その輪が広がっていくこと」というお話に共鳴を受けま

した。私自身、余裕があるという現状ではないですが、これから行う事が誰かのために＝自分のためになれるように今回の韓国視察も踏まえて精進していく所存です。

最後に、

・桂山聖堂でのお話ですが、私は韓国語がわからない中で式典が進行していく途中、出席者の方々が立ち上がり、周りの人たちに「カムサハムニダ」とお辞儀や握手をしながら伝え合うシーンがありました。

私は、その時だけは進行状況がわからない中でも、目頭が熱くなりました。

そして、私もその場の輪に入れてもらっている気がしました。

言葉の壁は、平和の壁でもあるのではないかと無い頭で考えていたのですが、

挨拶もそうですが、基本的に国や言葉は違えど、「感謝します、有難う」の意味合いは一緒なのだから、

きっちりとお互いの存在に感謝しあうことができ、伝えることができ、また伝えられた人もまた感謝するような事柄や文化を作り上げていけば、国境を越えて共有可能なのではないかと大卒ですが感じました。

歴史上、争いの中で敵同士が戦うばかりだったのか。安重根義士が日本兵を助けたお話のように、お互いが人として支えあったストーリーを多く伝えていく事ができればまた違った角度から平和への一歩が進むような気がしています。

今回の韓国への視察をお誘い下さり、また道中でも普段お聞きする事のできないお教えを頂き、私にとって分岐点となる大変有難いご縁を頂きました**小松社長**、腰痛のアドバイスから社会的、精神的な観点から事業に対するご指導を頂きました**磯江様**、この度、いろいろとご手配頂きました**魏様**や日頃からお世話になっております**小松電機産業の社員様**、弊社の事をご心配頂きながらも、中国のお話や優しさ溢れるお人柄での観点からの平和をお教え頂きました**張先生**、韓国でのご手配や移動で大変お世話になりました**小松コリアの尹様**、そして私の腰痛をご心配頂き湿布や、痛み止めをくださった**朴様**、会社案内をしてくださった**小松コリアの皆様**、再びお会いすることができ、明るくお迎え頂きまた韓国の事をお教えくださった**金顧問**、**金美正様**、私が双子を授かった事に対して会の途中に関わらず対岸からの祝福頂きました**李様**、**大邱弁護団体の皆様**はじめ**韓国で出逢わせて頂きました全ての皆様に**。そして腰がようやく完治に向かい痛みがなくなった事で感じる事ができた痛みのない生活と、こういった方々と出逢わせて頂き私自身学びを得る場ができたきっかけの**安重根義士に**。心よりの感謝を申し上げてさせて頂き、私なりのレポートとさせて頂きます。

